

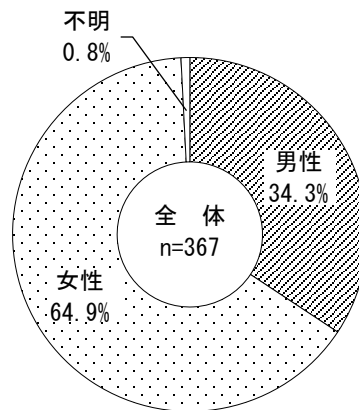
第3章 在宅介護実態調査

1 調査対象者の家族や生活の状況

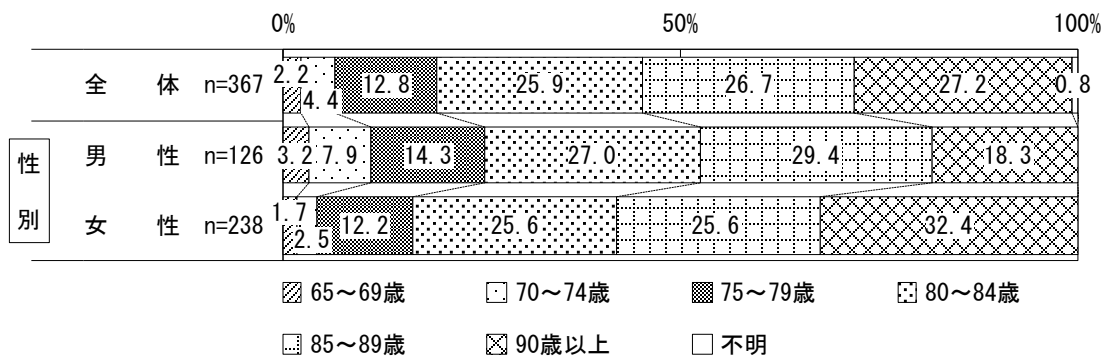
(1) 性別・年齢別

- ▶調査対象者の性別は、男性が34.3%、女性が64.9%、不明が0.8%です（図表3－1）。
- ▶年齢は、65～74歳が6.6%であり、75歳以上が92.6%を占めています（図表3－2）。

図表3－1 性別



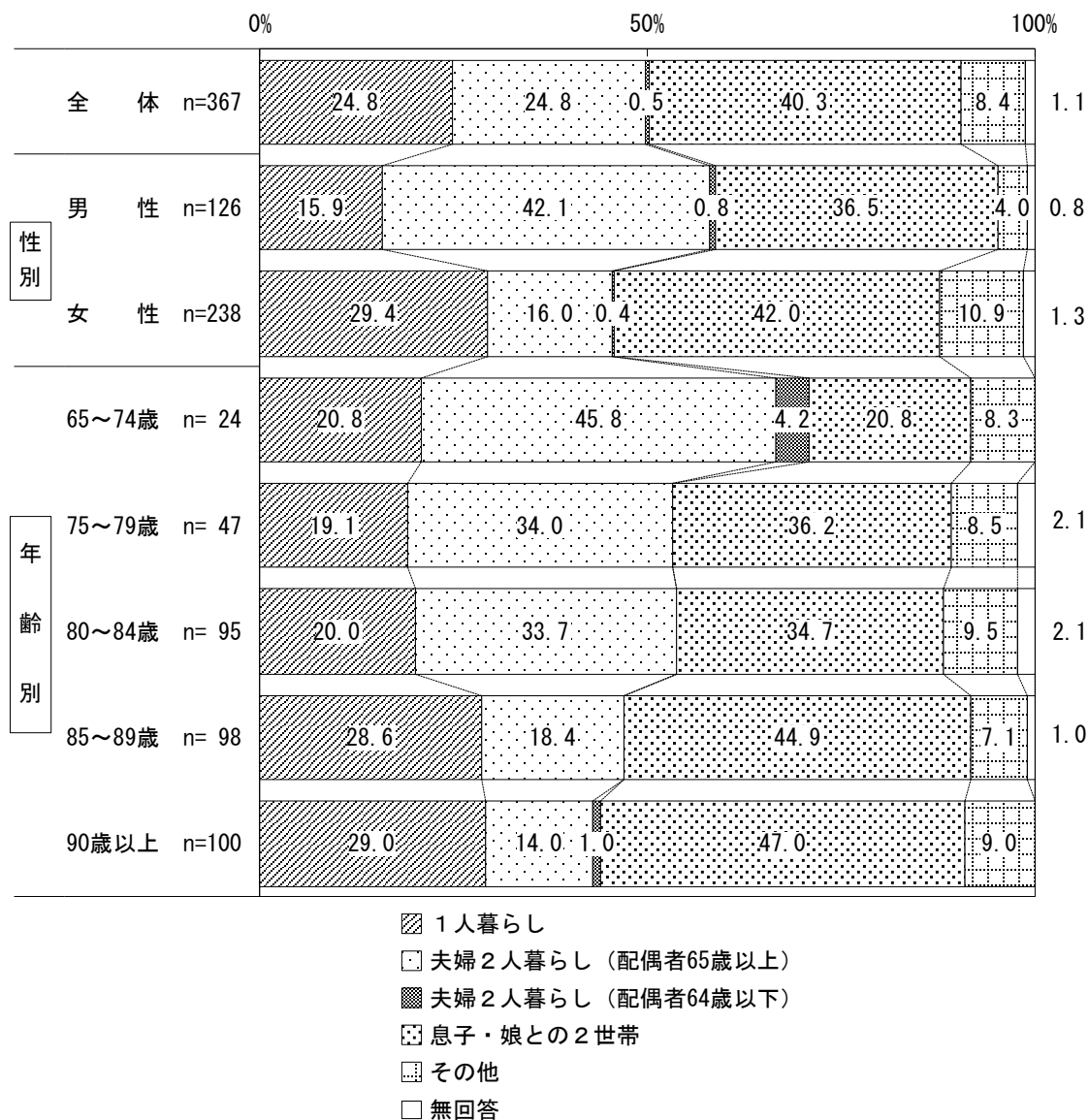
図表3－2 年齢別



(2) 家族構成

- ▶家族構成は、「息子・娘との2世帯」が40.3%と最も高くなっています。「1人暮らし」および「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」はそれぞれ24.8%で、その合計は49.6%です。
- ▶年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「1人暮らし」が上昇し、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が低下する傾向にあります。

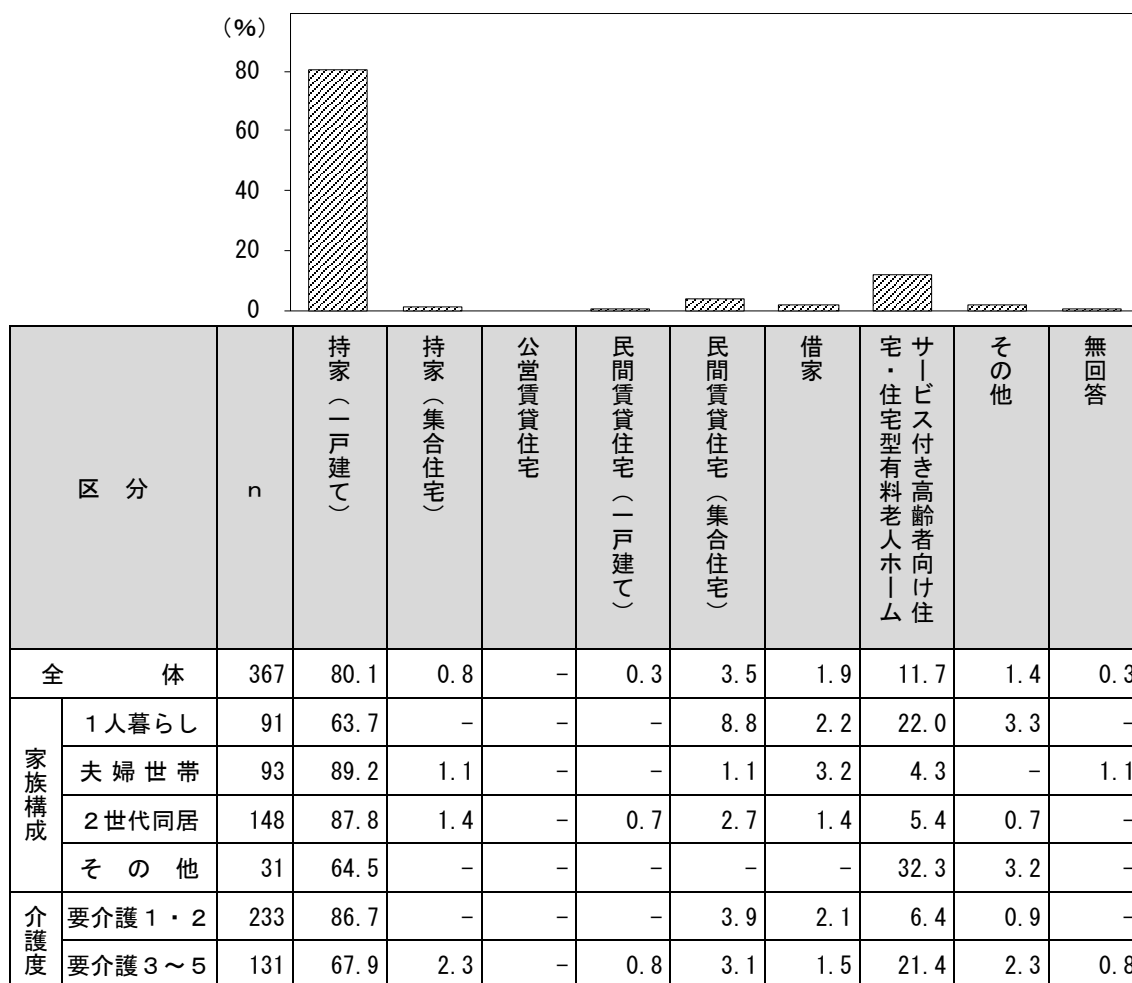
図表 3-3 家族構成



(3) 住まいの状況

- ▶住まいは、「持家（一戸建て）」が80.1%を占め、次いで「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が11.7%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が3.5%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「持家（一戸建て）」が低くなっている一方、「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」や「民間賃貸住宅（集合住宅）」が高くなっています。また、その他世帯では「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が30%以上あります。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム」が20%以上あります。
- ▶「その他」として「短期入所生活介護」「ナースিংホーム」等の記載がありました。

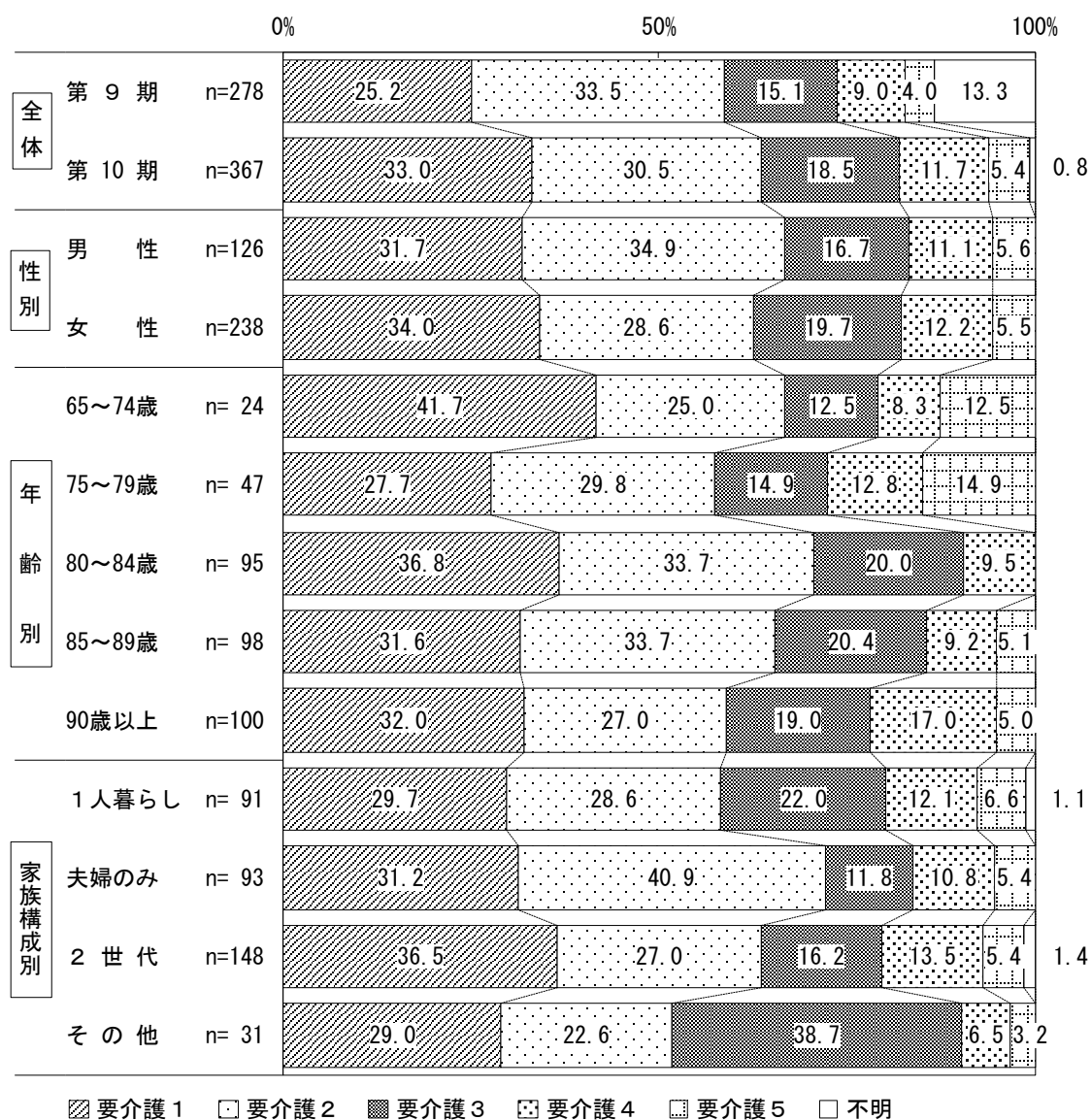
図表3-10 住まいの状況



(4) 要介護度

- ▶要介護度は、「要介護 1」が33.0%と最も高く、次いで「要介護 2」が30.5%、「要介護 3」が18.5%、「要介護 4」が11.7%、「要介護 5」が5.4%と、要介護 1・2で60%以上を占めています。
- ▶性別にみると、要介護 1・2は男性、要介護 3～5は女性が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでも最重度の「要介護 5」が6.6%（6人）あります。

図表 3-4 要介護度

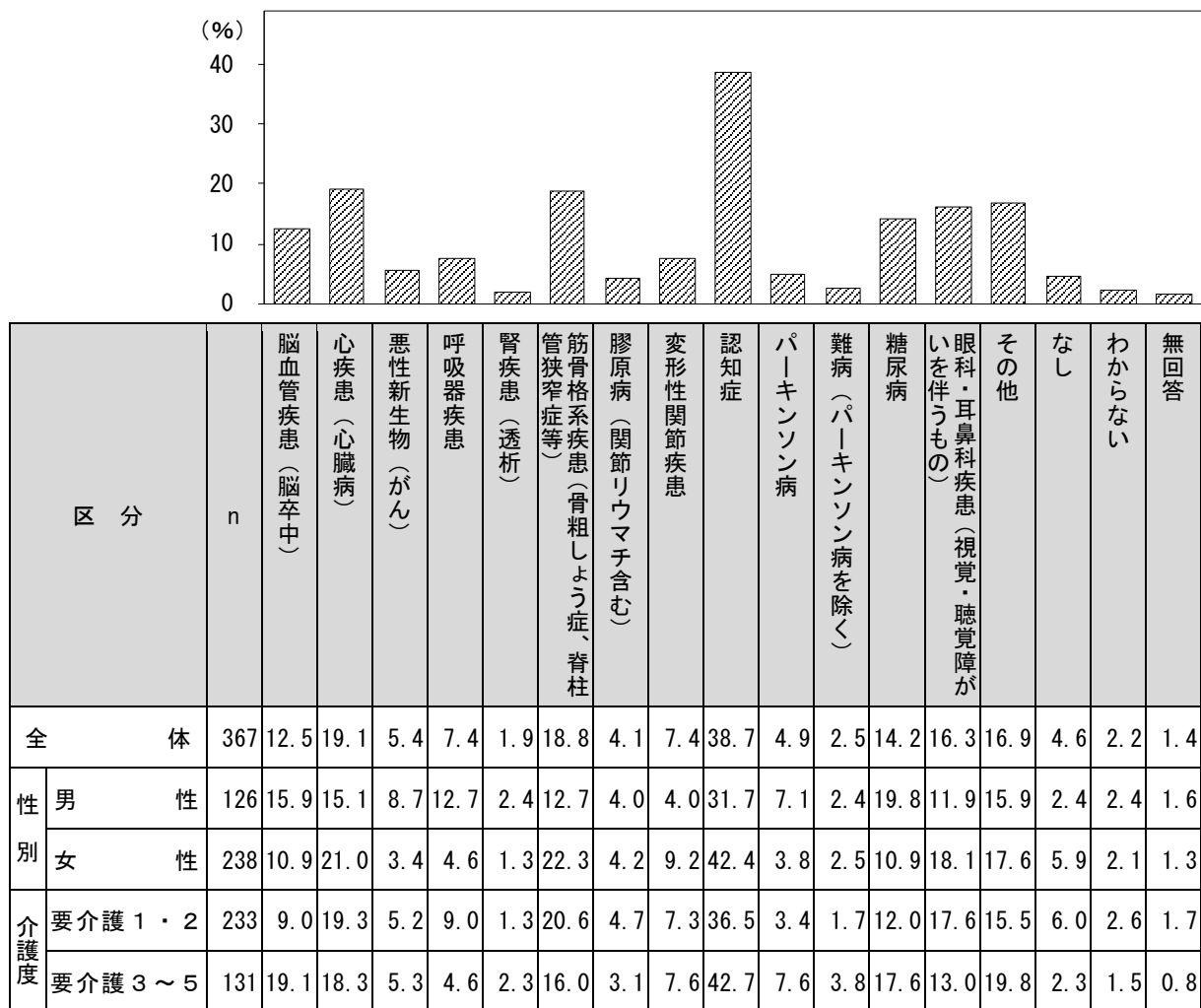


2 健康について

(1) 現在抱えている傷病

- ▶現在抱えている傷病については、「認知症」が38.7%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」が19.1%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が18.8%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」が16.3%などとなっています。
- ▶性別により大きな差があるのは、男性が高い「糖尿病」「呼吸器疾患」、女性が高い「認知症」「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」などです。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「脳血管疾患（脳卒中）」が10ポイント以上高くなっています。
- ▶「その他」として「高血圧症」「骨折」「高脂血症」などが多数記載されていました。

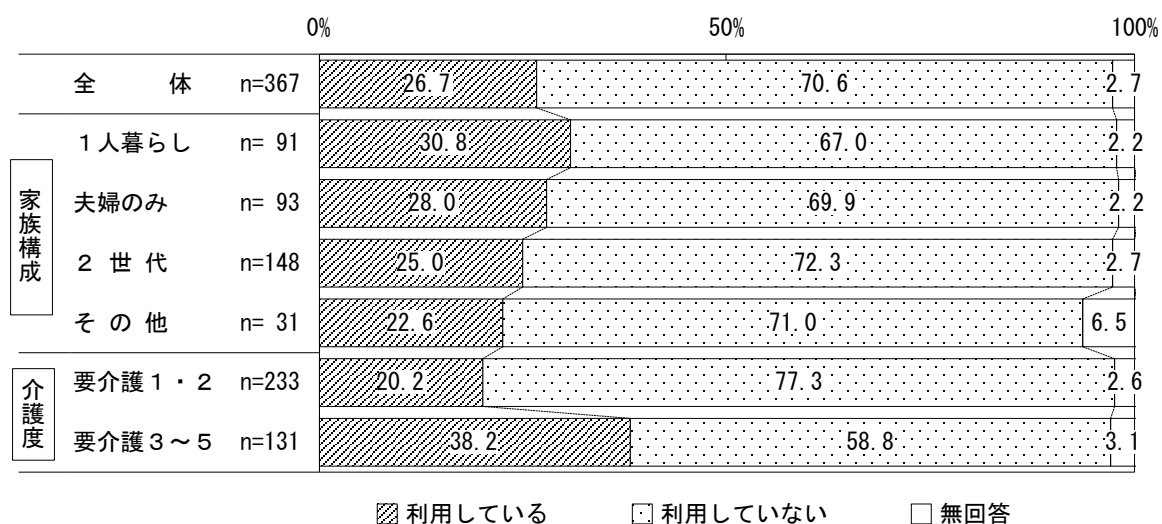
図表3-5 現在抱えている傷病（複数回答）



(2) 訪問診療の利用状況

- ▶現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が26.7%です。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは利用率が30%を超えています。
- ▶要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなっており、要介護3～5では38.2%となります。

図表3-11 訪問診療の利用状況

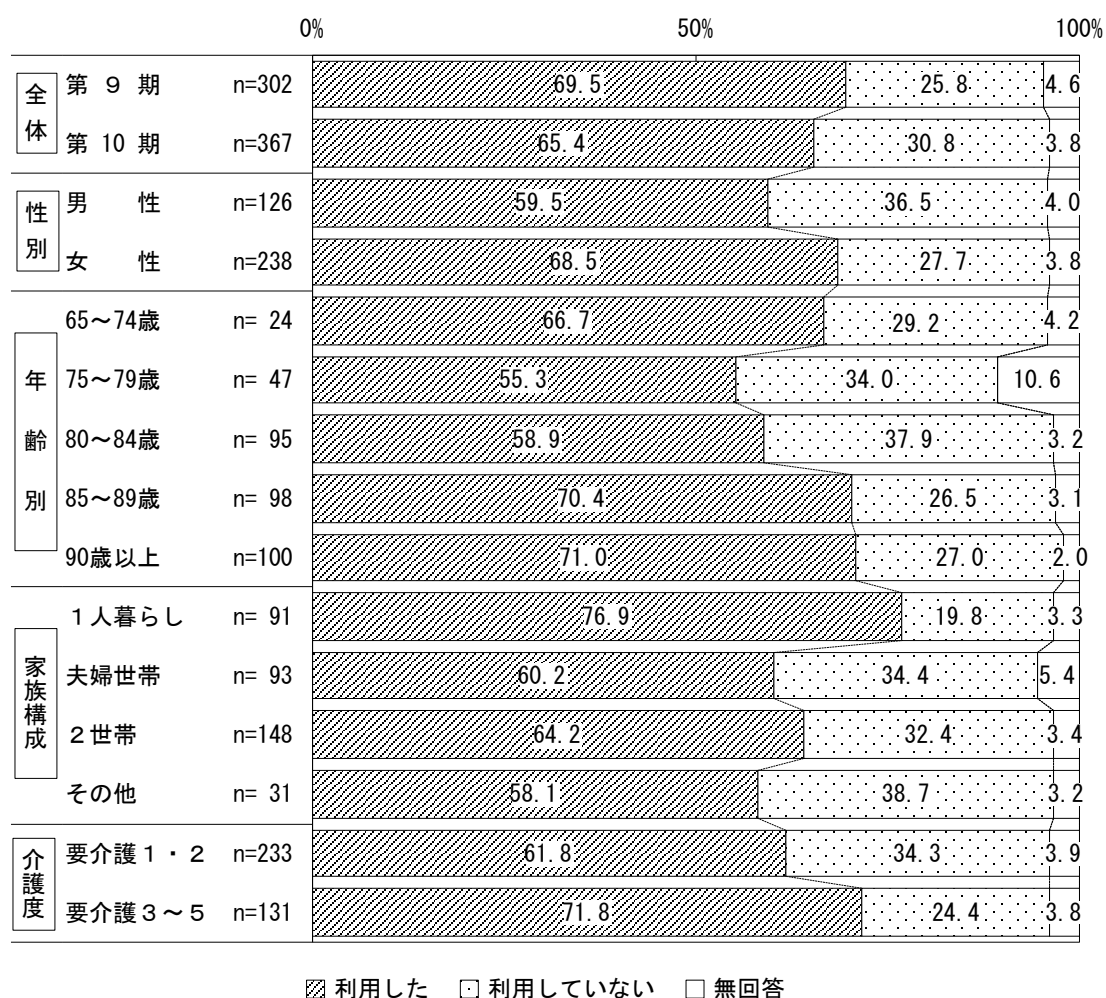


3 介護保険サービスについて

(1) 居宅サービスの利用状況

- ▶令和7年10月の1か月間に、介護保険の居宅サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）を「利用した」のは65.4%、「利用していない」は30.8%です。第9期の調査結果に比べ「利用した」は4.1ポイント低下しています。
- ▶家族構成別にみると、「利用した」は1人暮らしが76.9%と他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5は要介護1・2に比べ「利用した」が10ポイント高くなっています。

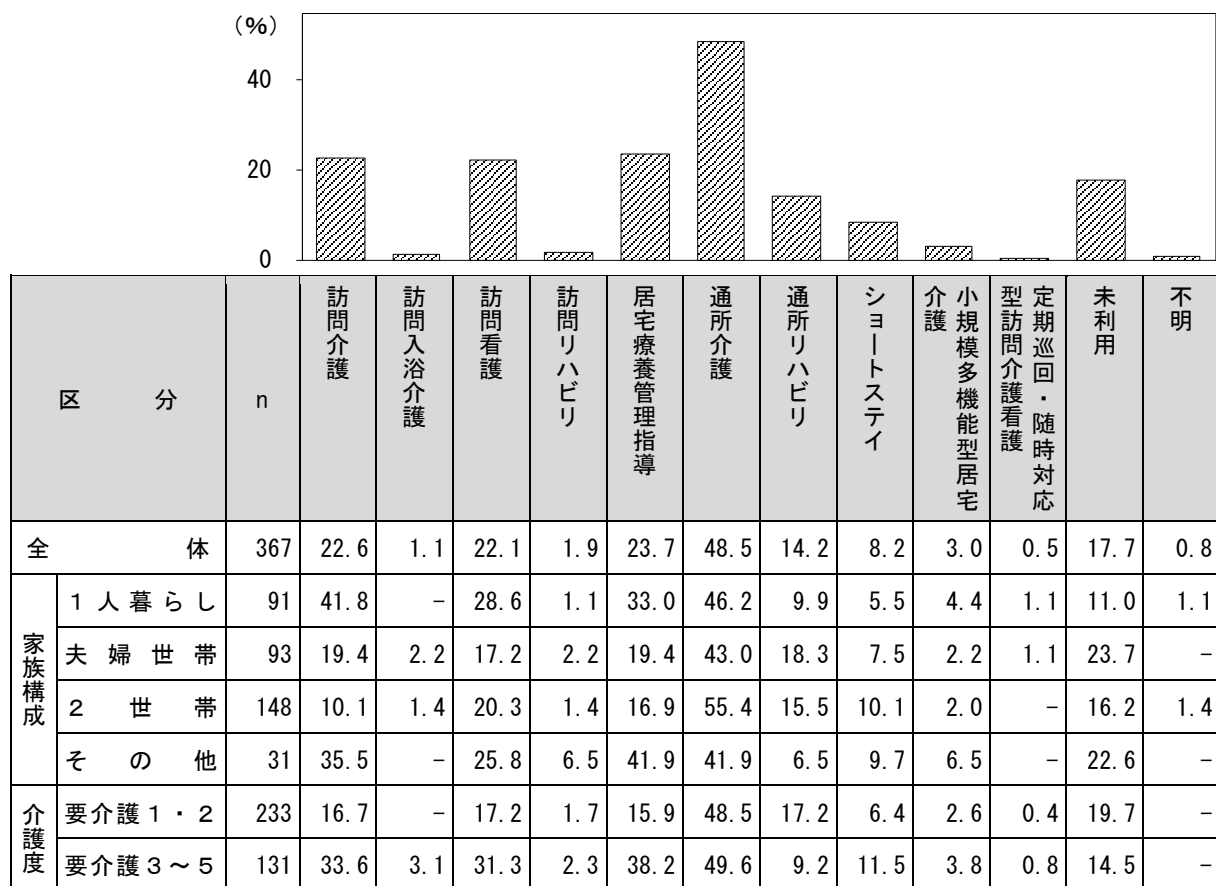
図表3-12 介護保険の居宅サービスの利用状況



(2) 種類別のサービス利用状況

- ▶介護保険の居宅サービスの利用状況は、「通所介護」が48.5%と最も高く、次いで「居宅療養管理指導」が23.7%、「訪問介護」が22.6%、「訪問看護」が22.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホーム入居者が多いその他世帯では全般的に利用率が高くなっています。また、1人暮らしの「訪問介護」、2世帯の「通所介護」および夫婦世帯の「未利用」が他の世帯構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「訪問介護」「訪問看護」および「居宅療養管理指導」の利用率が10ポイント以上高くなっています。

図表3-13 介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況（令和7年11月分の利用状況データ）

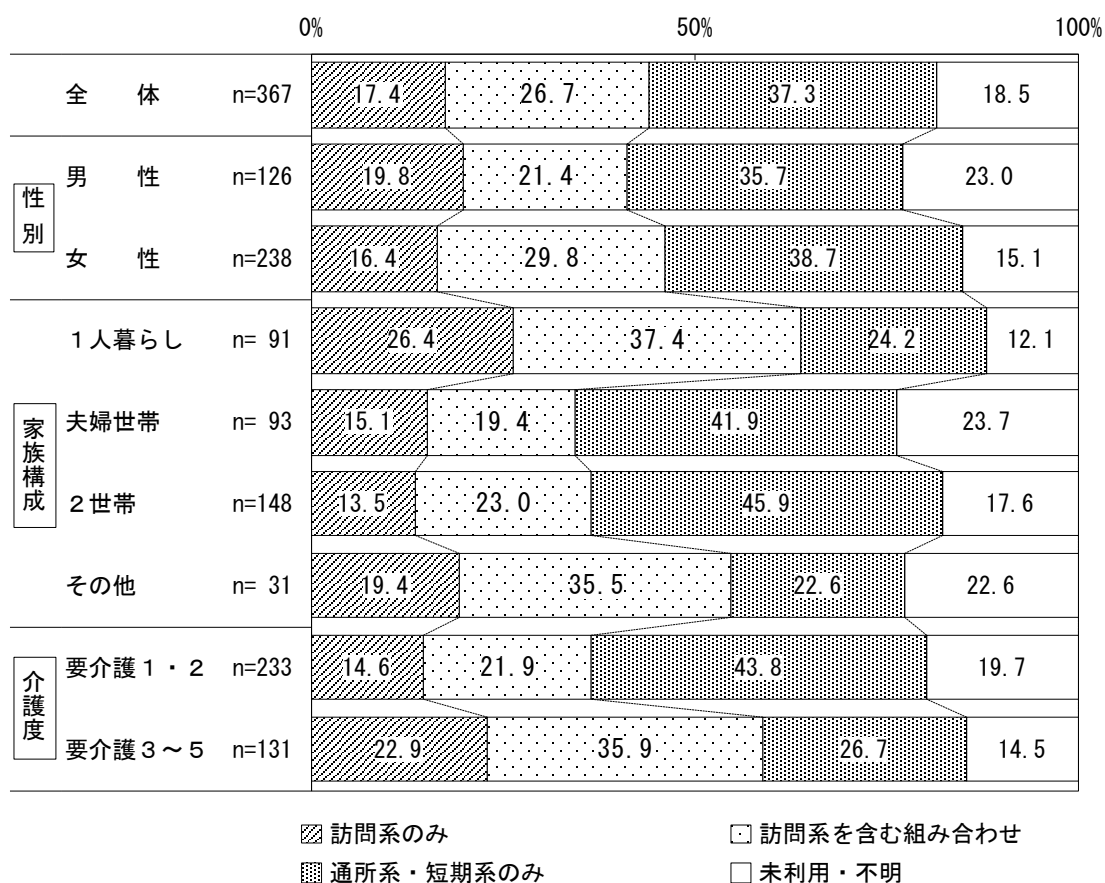


※「通所介護」には地域密着型通所介護を含む

(3) 利用しているサービスの組み合わせ

- ▶利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系・短期系のみ」が37.3%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.7%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く37.4%あります。一方、夫婦世帯および2世帯では「通所系・短期系のみ」が40%以上を占めています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が高く、「通所系・短期系のみ」が低くなっています

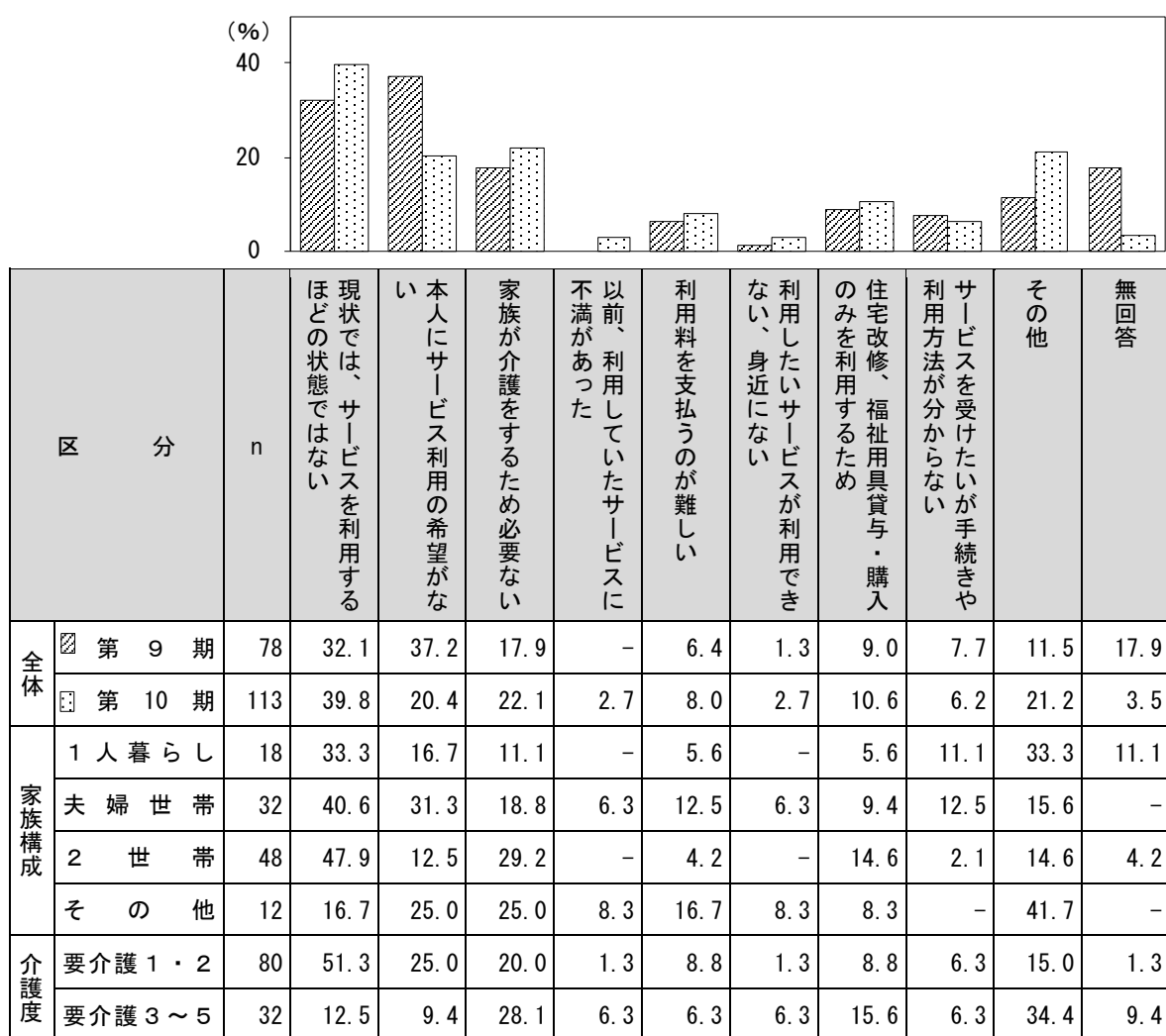
図表3-14 利用しているサービスの組み合わせ（令和7年11月分の利用状況データ）



(4) 介護サービスを利用しない理由

- ▶介護保険サービスを1つも利用していない113人に、利用していない理由をお聞きしたところ、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が39.8%と最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が22.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.4%などとなっています。
- ▶「その他」として、「サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム入居中」「入院中」などの記載がありました。

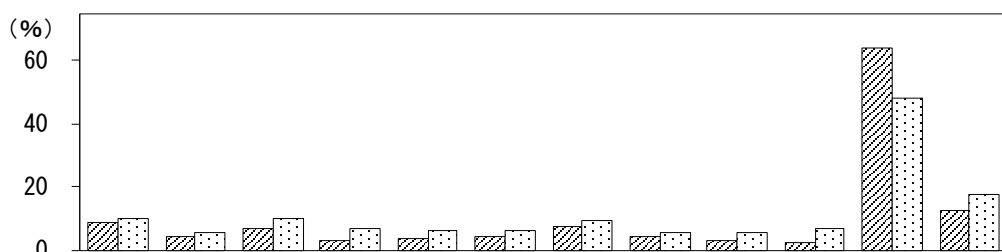
図表3-15 サービスを利用しない理由（複数回答）



(5) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用

- ▶現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「利用していない」が48.2%を占めています。利用しているサービスとしては、「配食」および「掃除・洗濯」が9.8%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が9.5%、「買い物（宅配は含まない）」が7.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「掃除・洗濯」や「配食」をはじめほとんどの項目で他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶「その他」として、「入院中」「施設入居中」「障害福祉サービス」「訪問理容」「ベッドなど福祉用具のリース」などの記載がありました。

図表3-16 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用（複数回答）

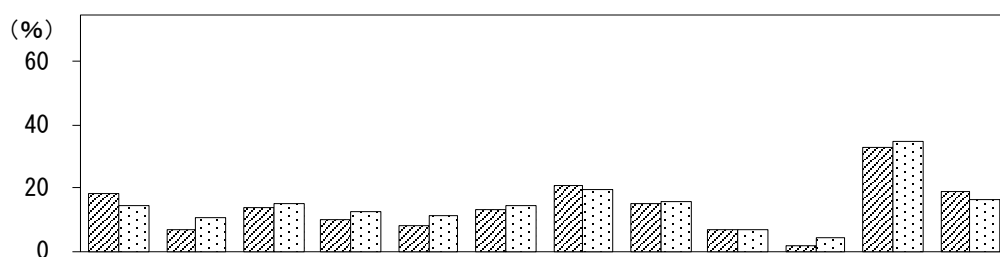


区 分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	第 9 期	302	8.6	4.0	7.0	3.3	3.6	4.6	7.3	4.0	3.0	2.6	63.9	12.3
	第 10 期	367	9.8	5.7	9.8	7.1	6.0	6.0	9.5	5.7	5.4	7.1	48.2	17.4
家族構成	1人暮らし	91	24.2	15.4	25.3	18.7	16.5	11.0	13.2	14.3	7.7	7.7	37.4	11.0
	夫婦世帯	93	6.5	3.2	7.5	6.5	3.2	5.4	10.8	3.2	5.4	8.6	47.3	16.1
	2世代同居	148	2.7	1.4	2.7	2.0	1.4	3.4	8.1	1.4	4.1	4.1	55.4	23.0
	その他	31	9.7	3.2	3.2	-	3.2	6.5	3.2	6.5	3.2	16.1	45.2	16.1
介護度	要介護1・2	233	8.6	5.6	9.9	6.9	6.4	6.0	9.0	5.6	6.9	6.9	49.8	15.5
	要介護3～5	131	11.5	6.1	9.2	6.9	4.6	5.3	9.9	5.3	2.3	7.6	46.6	20.6

(6) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

- ▶要介護認定者の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス」が19.3%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が15.5%、「掃除・洗濯」が15.3%、「外出同行」が14.7%、「配食」が14.2%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「調理」および「ゴミ出し」が3ポイント以上上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、全般的に1人暮らしが高くなっています。
- ▶「その他」として、「入院中」「施設入居中」「草刈り」「家具など重いものを移動させる支援」などの記載がありました。

図表3-17 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



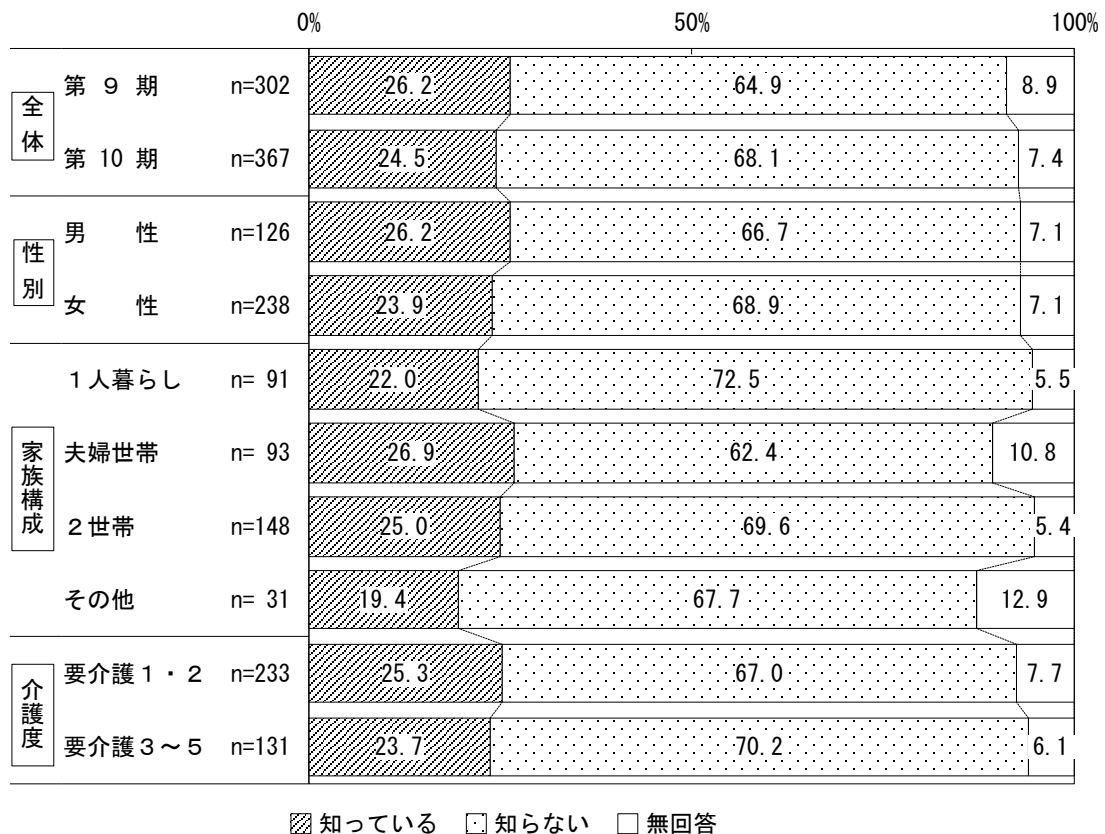
区 分		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)	移送サービス (介護・福祉タクシー等)	見守り・声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	第 9 期	302	18.5	6.6	13.6	10.3	7.9	12.9	20.9	15.2	7.0	1.7	33.1	19.2
	第 10 期	367	14.2	10.4	15.3	12.3	11.2	14.7	19.3	15.5	7.1	4.4	35.1	16.3
家 族 構 成	1 人 暮 ら し	91	28.6	18.7	26.4	25.3	24.2	26.4	20.9	24.2	9.9	3.3	26.4	12.1
	夫 婦 世 帯	93	10.8	6.5	15.1	9.7	9.7	9.7	18.3	8.6	5.4	4.3	35.5	18.3
	2 世 代 同 居	148	8.8	9.5	10.1	8.1	4.7	10.8	18.2	15.5	7.4	2.7	40.5	16.2
	そ の 他	31	9.7	3.2	9.7	3.2	9.7	12.9	19.4	12.9	3.2	16.1	35.5	22.6
介 護 度	要介護1・2	233	14.6	9.0	15.0	13.3	12.0	14.2	19.3	14.6	6.9	2.6	34.8	14.2
	要介護3～5	131	13.0	12.2	14.5	9.9	9.2	15.3	19.8	16.0	6.9	7.6	36.6	19.8

4 認知症について

(1) 認知症サポーターの認知度

- ▶ 認知症を正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守る応援者として笠松町が養成を進めている『認知症サポーター』については、「知らない」が68.1%を占めており、「知っている」は24.5%です。第9期の調査結果に比べ「知っている」が1.7ポイント低下しています。
- ▶ 家族構成別にみると、1人暮らしおよびその他世帯は「知っている」が他の家族構成に比べ低くなっています。
- ▶ 要介護度別にみると、要介護1・2では「知っている」が25%を超えています。

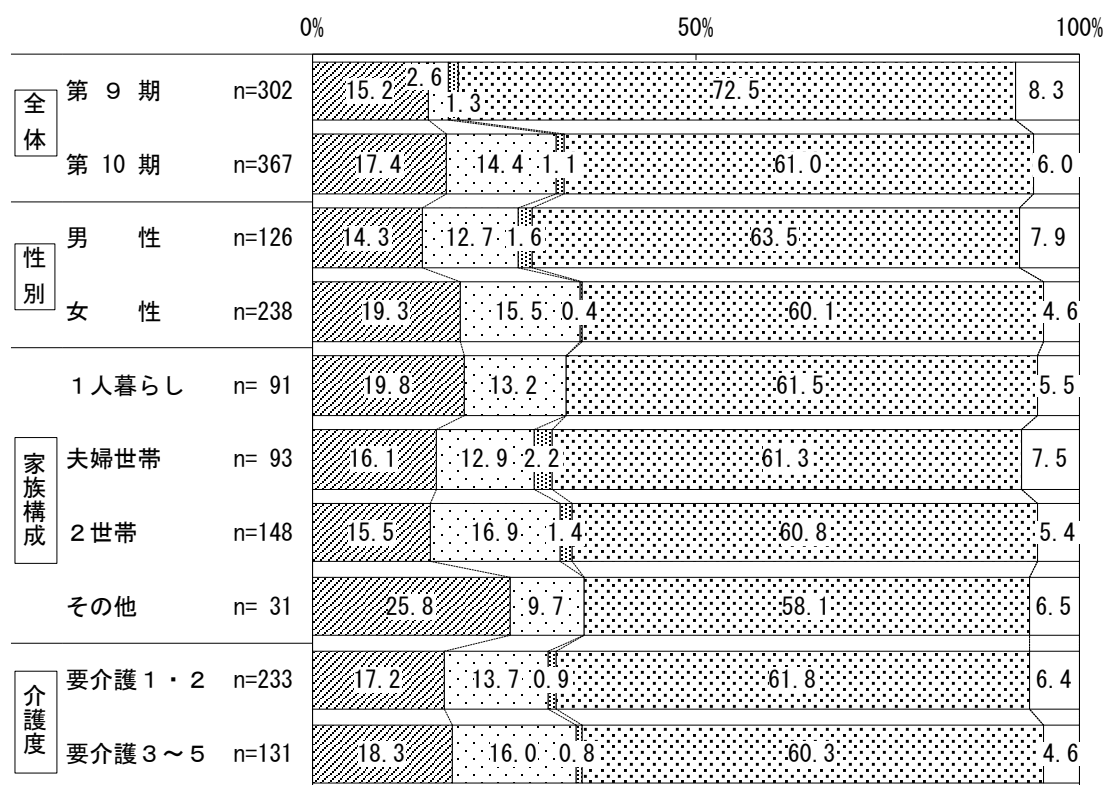
図表3-18 認知症サポーターの認知度



(2) 認知症カフェ（ふれあい喫茶）と認知症サロンの認知度

- ▶認知症の人や家族の地域におけるふれあいや情報交換の場である『認知症カフェ（ふれあい喫茶）』や『認知症介護者サロン』については、「両方とも知らない」が61.0%を占めており、「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている」が17.4%、「認知症カフェ」のみ知っている」が14.4%、「認知症介護者サロン」のみ知っている」が1.1%となっています。第9期の調査結果に比べ「認知症カフェ」のみ知っている」が11.8ポイントと大きく上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、その他世帯では「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている」が25%を超えています。

図表3-19 認知症カフェ（ふれあい喫茶）と認知症サロンの認知度

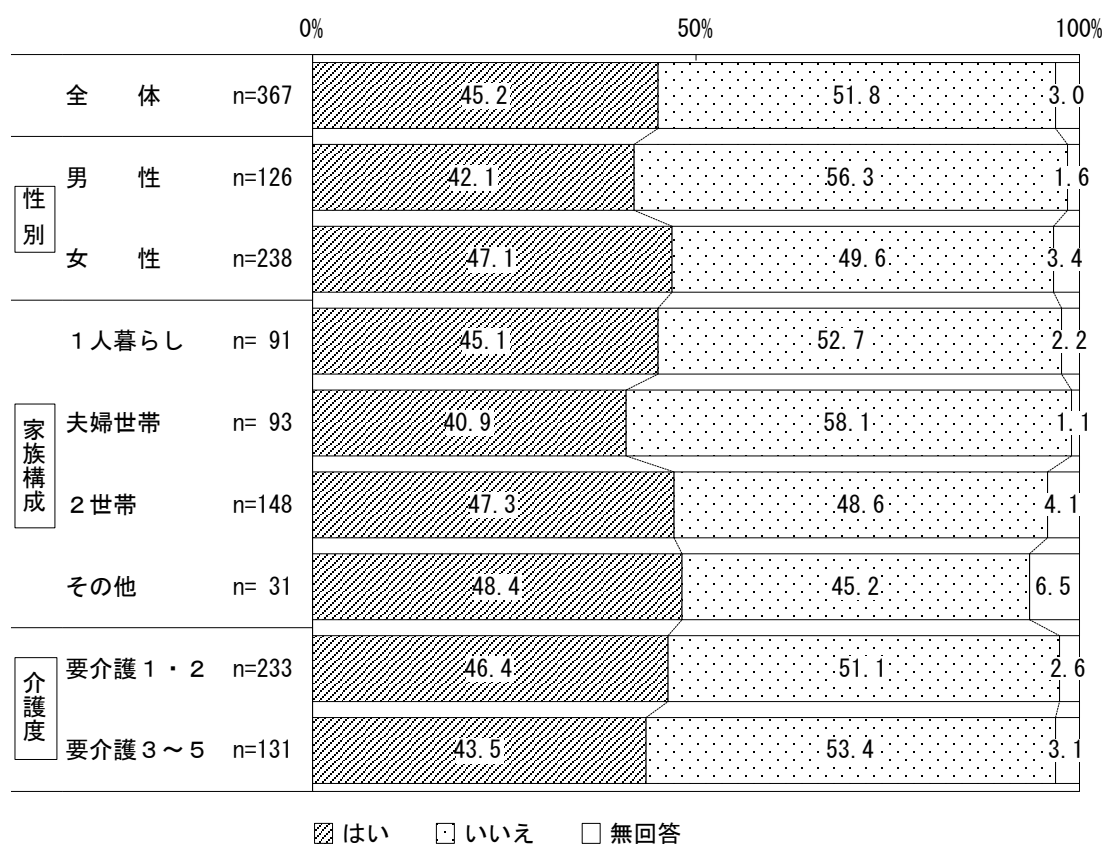


- ▨ 「認知症カフェ」「認知症介護者サロン」両方とも知っている
- 「認知症カフェ」のみ知っている
- ▤ 「認知症介護者サロン」のみ知っている
- 両方とも知らない
- 無回答

(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ▶「認知症に関する相談窓口を知っていますか」という設問については、「はい」が45.2%、「いいえ」が51.8%となっています。
- ▶性別にみると、認知度は男性に比べ女性が5ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、認知度は夫婦世帯が他の区分に比べ低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、認知度は要介護1・2が要介護3～5に比べ約3ポイント高くなっています。

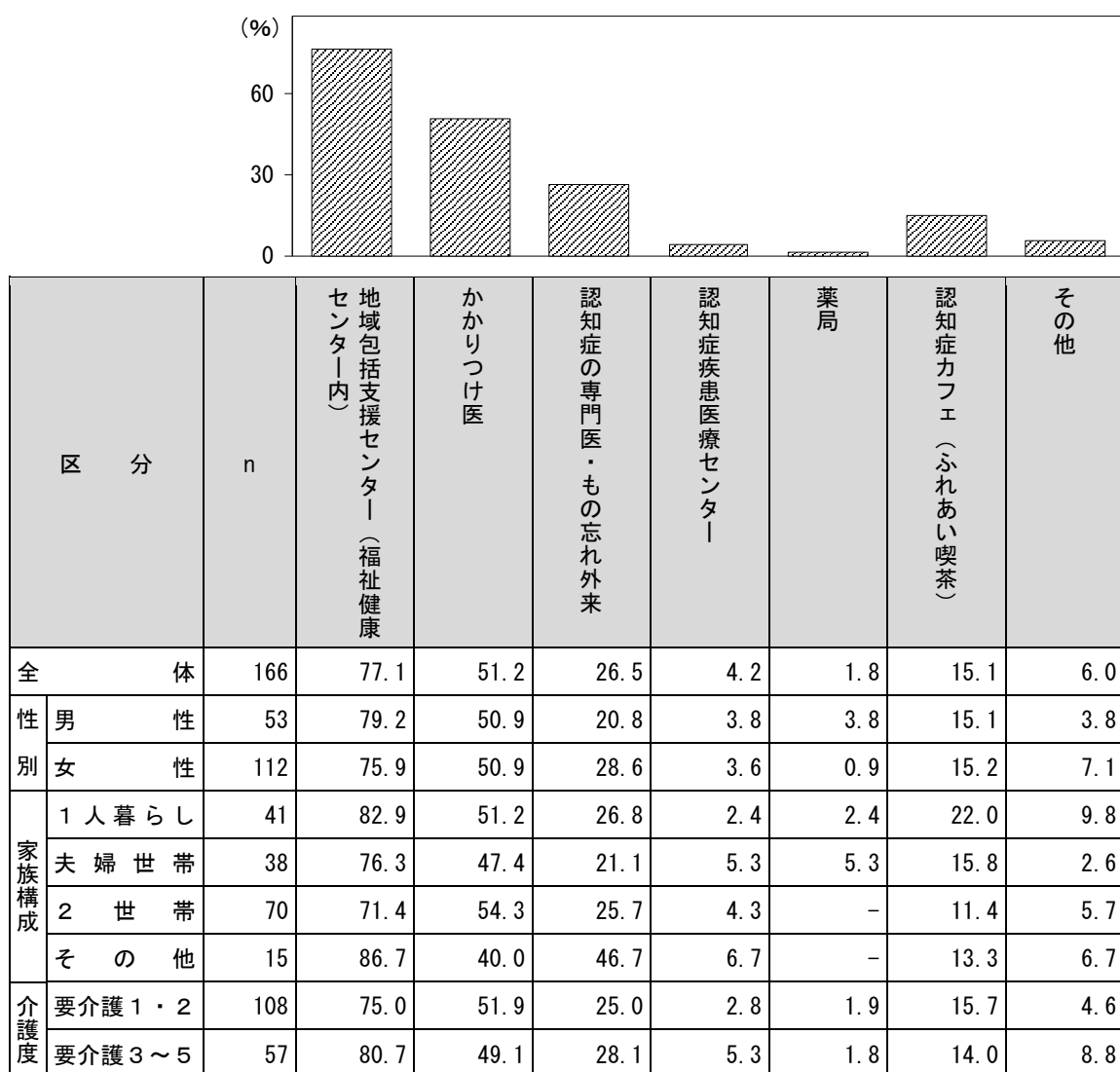
図表3-20 認知症に関する相談窓口の認知度



(4) 知っている認知症相談窓口

- ▶認知症に関する相談窓口を知っていると回答した166人の知っている相談窓口については、「地域包括支援センター（福祉健康センター内）」が77.1%と最も高く、次いで「かかりつけ医」が51.2%、「認知症の専門医・もの忘れ外来」が26.5%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、その他世帯および1人暮らしでは「地域包括支援センター（福祉健康センター内）」が80%を超えています。また、1人暮らしでは「認知症カフェ（ふれあい喫茶）」が他の家族構成に比べ高くなっています。

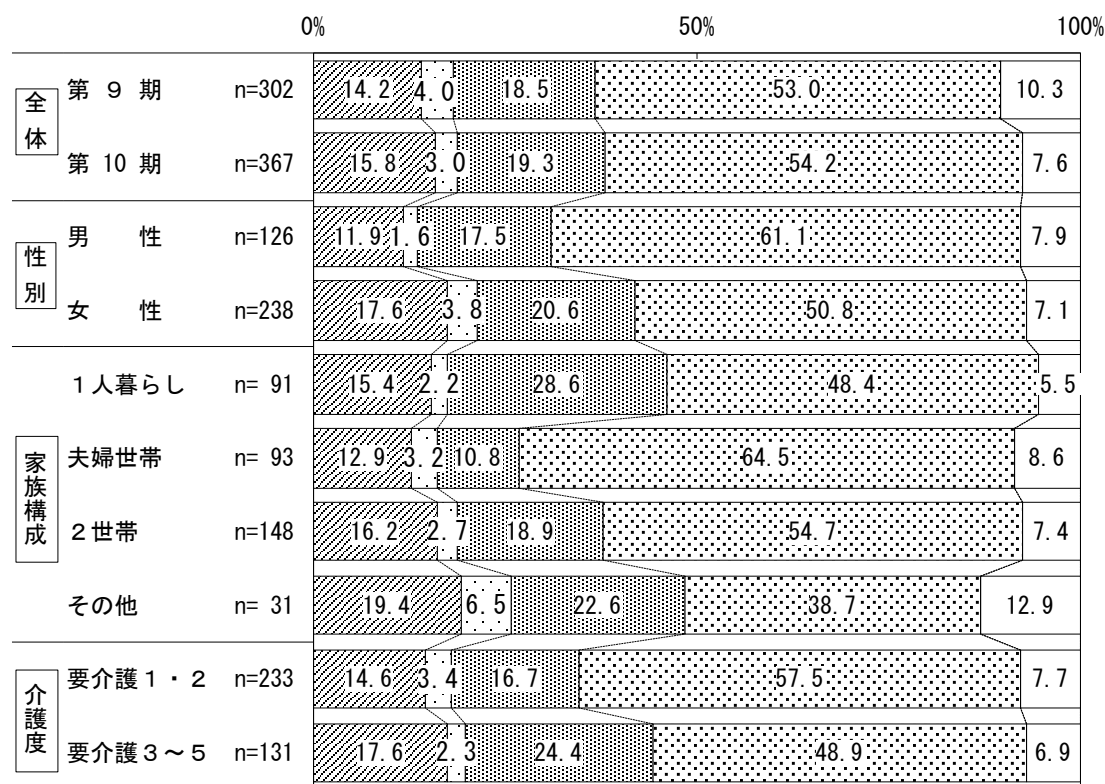
図表3-21 知っている認知症相談窓口（複数回答）



(5) 日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度

- ▶判断能力が不十分な人の権利を擁護するための制度である日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度については、「両方とも知らない」が54.2%を占めており、次いで「「成年後見制度」のみ知っている」が19.3%、「「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」両方とも知っている」が15.8%などとなっています。第9期の調査結果から大きな変化はありません。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯では「両方とも知らない」が他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では要介護3～5に比べ「両方とも知らない」が8.6ポイント高くなっています。

図表3-22 日常生活自立支援事業と成年後見制度の認知度

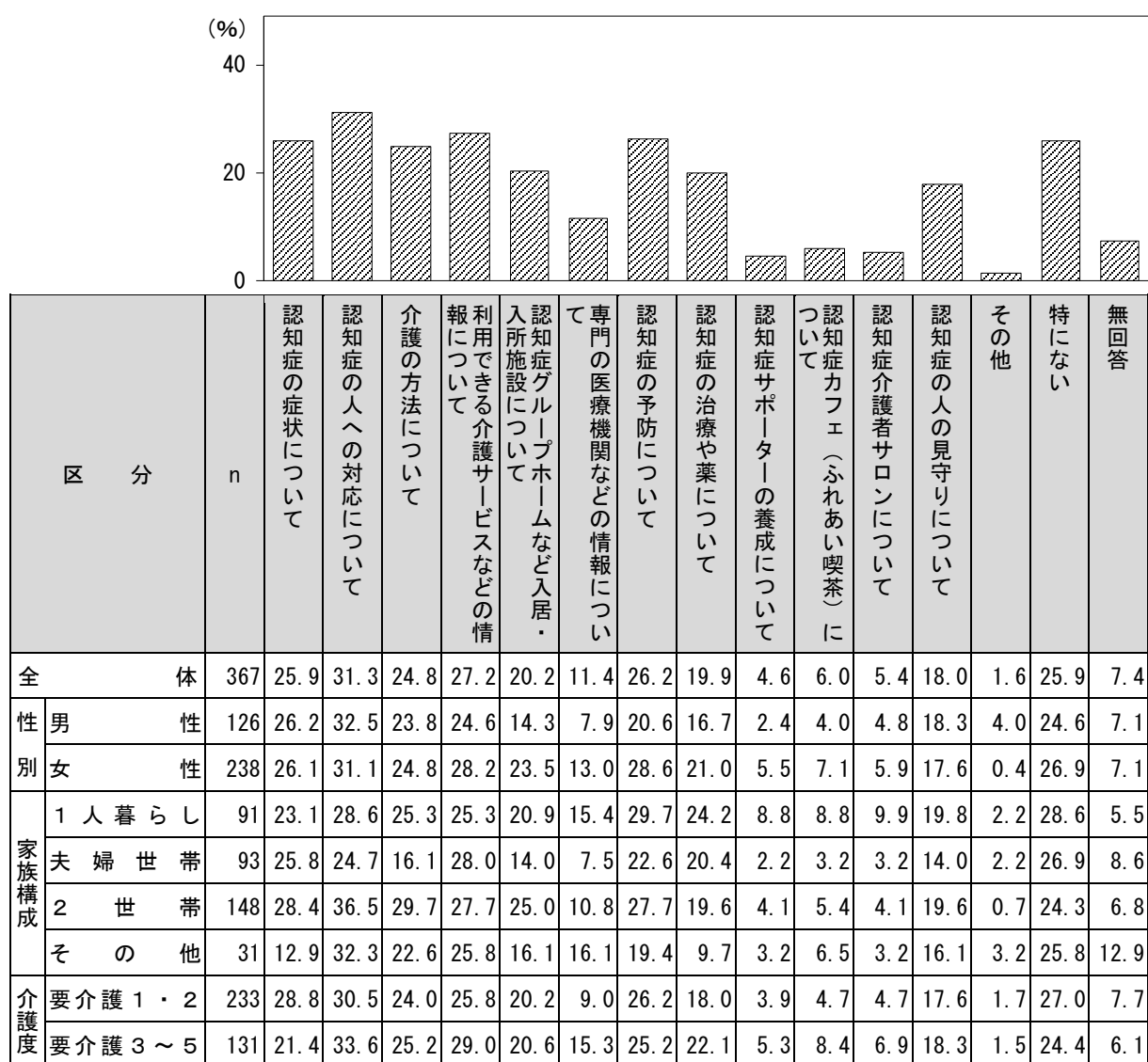


- 斜線 「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」両方とも知っている
- 点線 「日常生活自立支援事業」のみ知っている
- 格子 「成年後見制度」のみ知っている
- 空白 両方とも知らない
- 白 無回答

(6) 認知症について知りたいこと・関心があること

- ▶認知症について知りたいこと・関心があることについては、「認知症の人への対応について」が31.3%と最も高く、次いで「利用できる介護サービスなどの情報について」が27.2%、「認知症の予防について」が26.2%、「認知症の症状について」が25.9%、「介護の方法について」が24.8%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「認知症の予防について」、夫婦世帯では「利用できる介護サービスなどの情報について」、2世帯およびその他世帯では「認知症の人への対応について」がそれぞれ最も高くなっています。

図表3-23 認知症について知りたいこと・関心があること（複数回答）

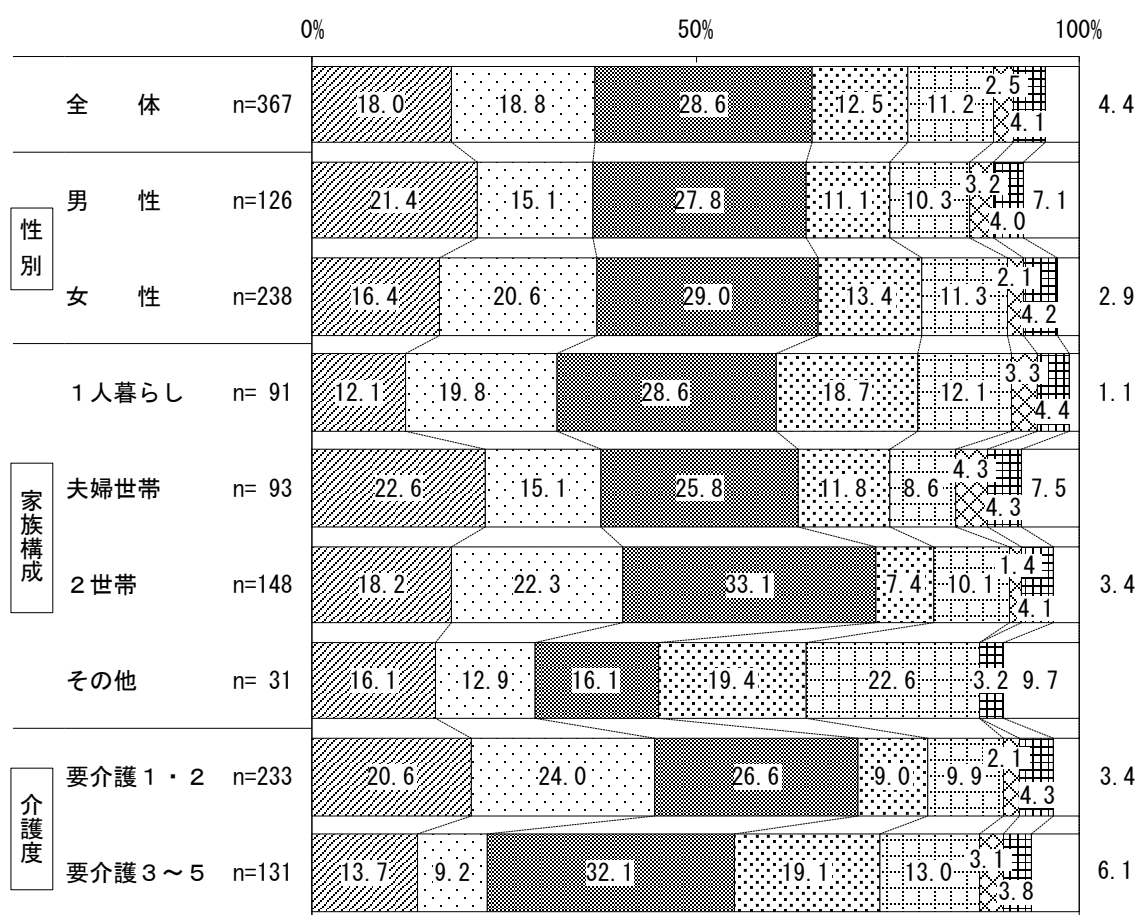


(7) 認知症になったらどのように暮らしたいか

▶「認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか」という設問に対しては、「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活したい」が28.6%と最も高く、次いで「周りのサポートを受けながら地域で生活したい」が18.8%、「自ら工夫して地域で今までどおり生活をしたい」が18.0%となっており、要介護認定者の多くが認知症になっても住み慣れた地域での生活を望んでいることがわかります。「身の回りのことができないので介護施設で暮らしたい」は12.5%、「周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい」は11.2%です。

▶要介護度別にみると、要介護3～5は要介護1・2に比べ施設意向が高くなっています。

図表3-24 認知症になったらどのように暮らしたいか

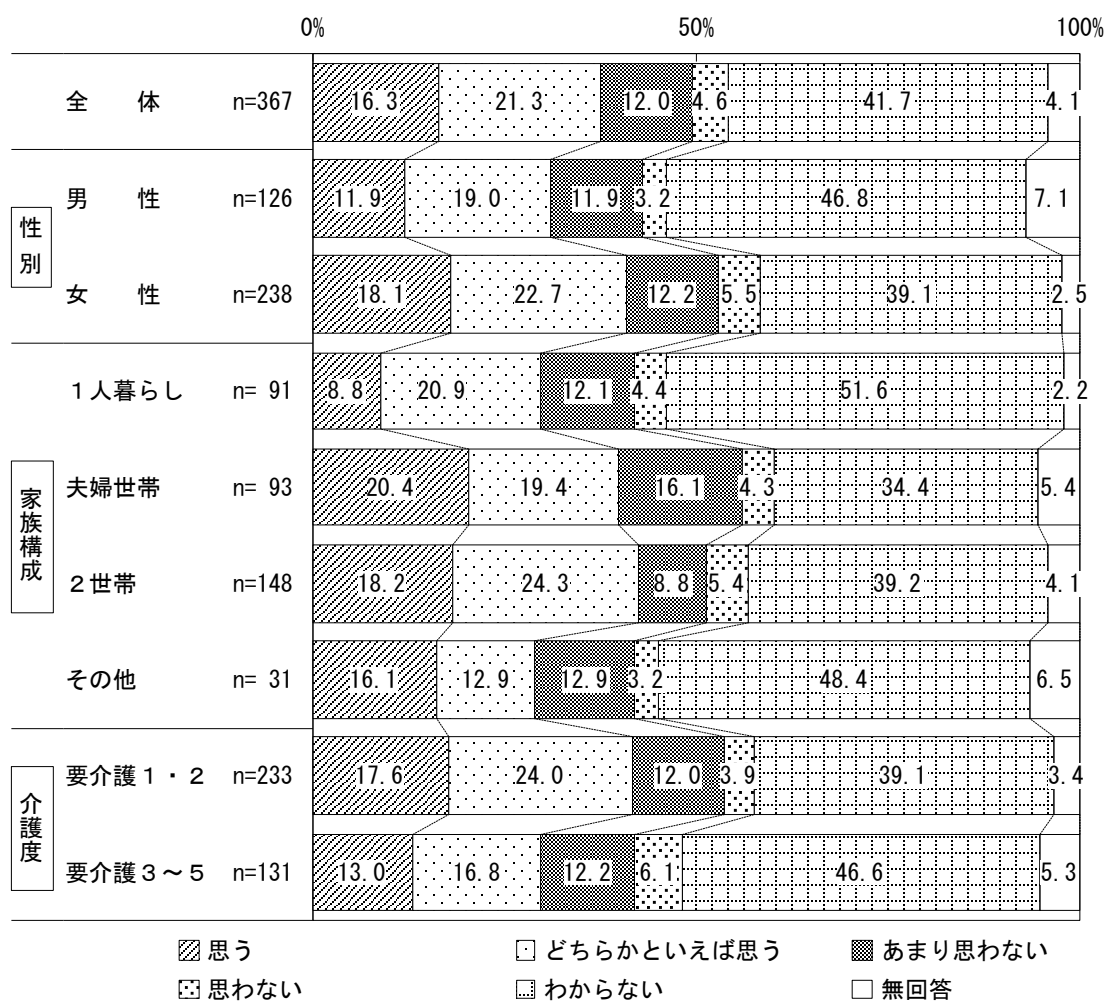


- ☒ 自ら工夫して地域で今までどおり生活をしたい
- ☒ 周りのサポートを受けながら地域で生活したい
- ☒ 医療・介護等のサポートを利用して地域で生活したい
- ☒ 身の回りのことができないので施設で暮らしたい
- ☒ 周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい
- ☒ 誰にも迷惑をかけないようひとりで暮らしたい
- ☒ その他
- ☐ 無回答

(8) 新しい認知症感

- ▶「笠松町は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が40%以上を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が21.3%となっており、「思う」（16.3%）との合計《暮らし続けられると思う》は37.6%です。
- ▶《暮らし続けられると思う》を属性別にみると、性別では女性、家族構成別では2世帯、要介護度別では要介護1・2がそれぞれ他の区分に比べ高くなっています。

図表3-25 笠松町は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちか

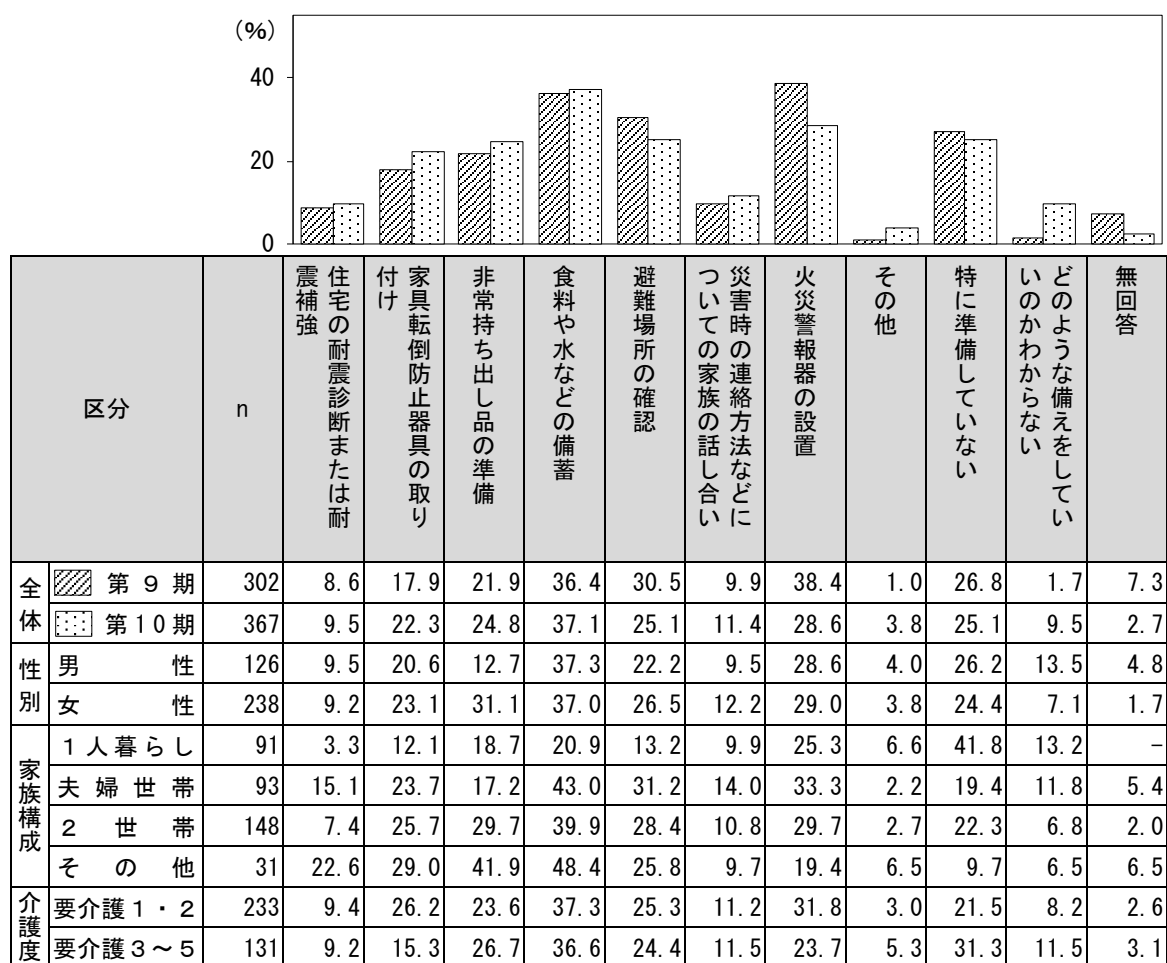


5 災害時の対応について

(1) 災害時に対する備え

- ▶「あなたの家では、地震などの災害時に対してどのような備えをしていますか」という設問については、「食料や水などの備蓄」が37.1%と最も高く、次いで「火災警報器の設置」が28.6%、「避難所の確認」および「特に準備していない」が25.1%、「非常持ち出し品の準備」が24.8%、「家具転倒防止器具の取り付け」が22.3%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「どのような備えをしていいのかわからない」が7.8ポイント上昇しています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「特に準備していない」および「どのような備えをしていいのかわからない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

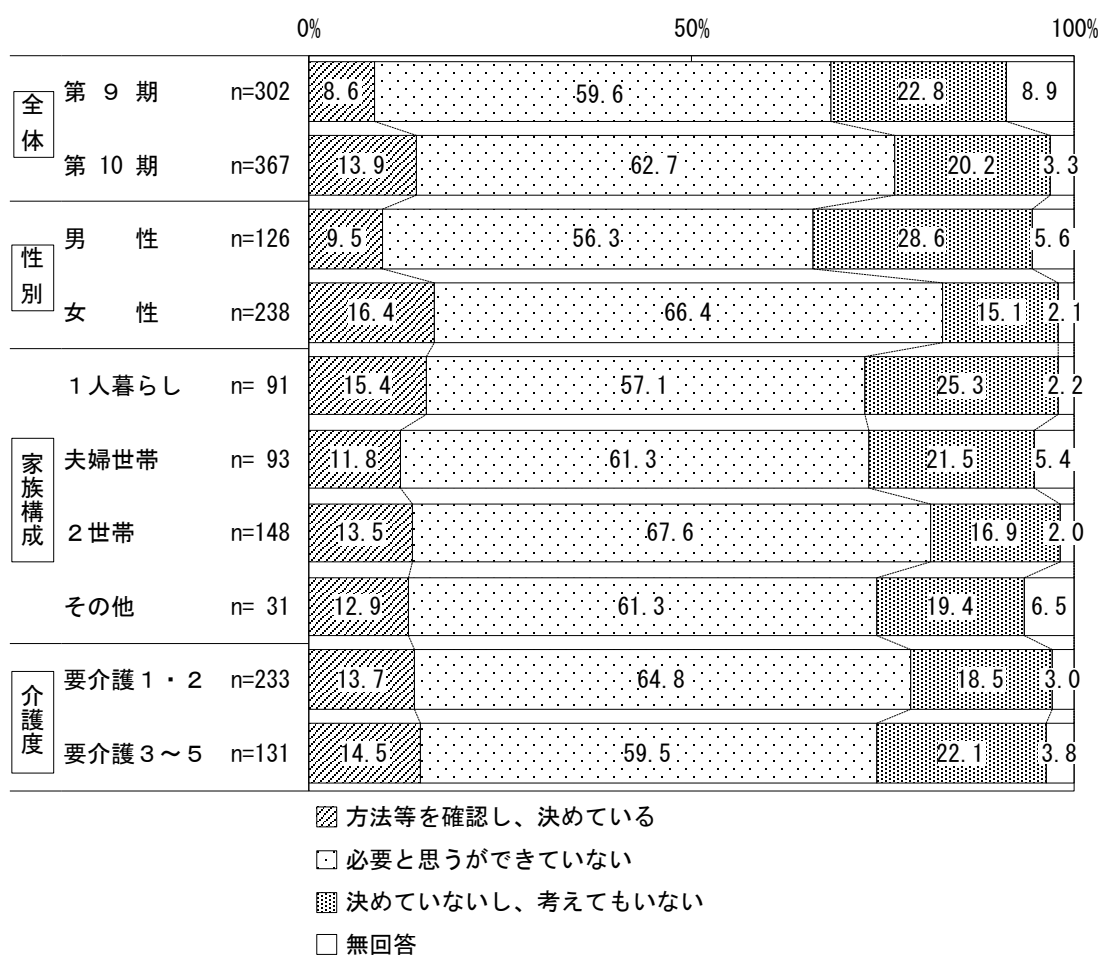
図表3-26 災害時に対する備え（複数回答）



(2) 避難方法や安否確認についての確認

- ▶「家族や地域の方等と避難方法や安否確認についての話し合いや決めごとをしていますか」という設問については、「必要と思うができていない」が62.7%を占めています。「方法等を確認し、決めている」は13.9%、「決めていないし、考えてもいない」は20.2%です。第9期の調査結果に比べ「方法等を確認し、決めている」が5.3ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、男性に比べ女性は「方法等を確認し、決めている」が6.9ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「決めていないし、考えてもいない」が他の家族構成に比べ高くなっています。

図表3-27 家族や地域の人と避難方法などについて決めごとをしているか

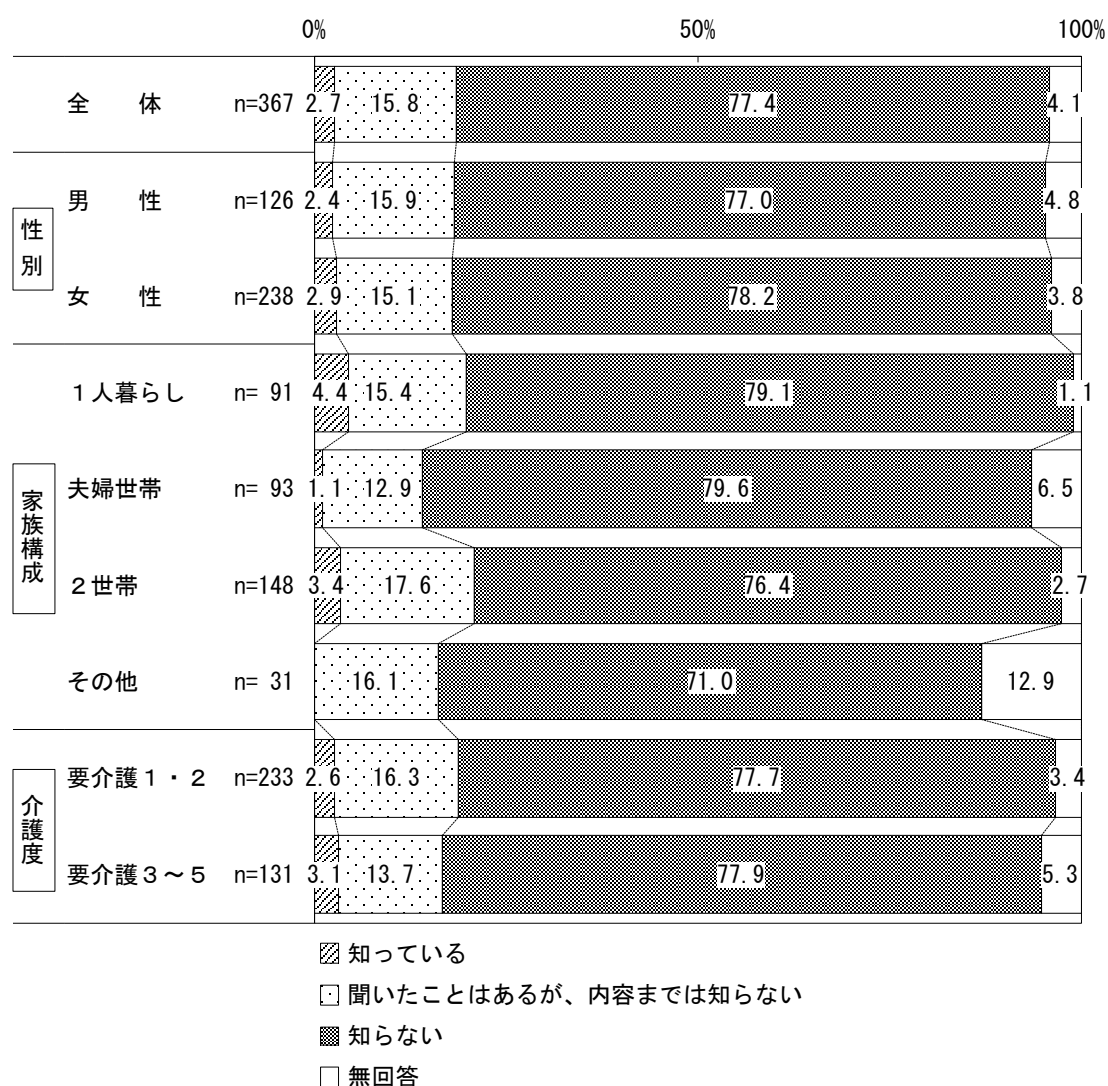


6 これからの生活について

(1) 人生会議（ACP）の認知度

- ▶もしもの時のために、本人が望む医療や介護について、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みである人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度は、「知らない」が77.4%を占めており、「知っている」（2.7%）と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（15.8%）の合計《認知度》は18.5%となっています。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯およびその他世帯では《認知度》が他の世帯類型に比べ低くなっています。

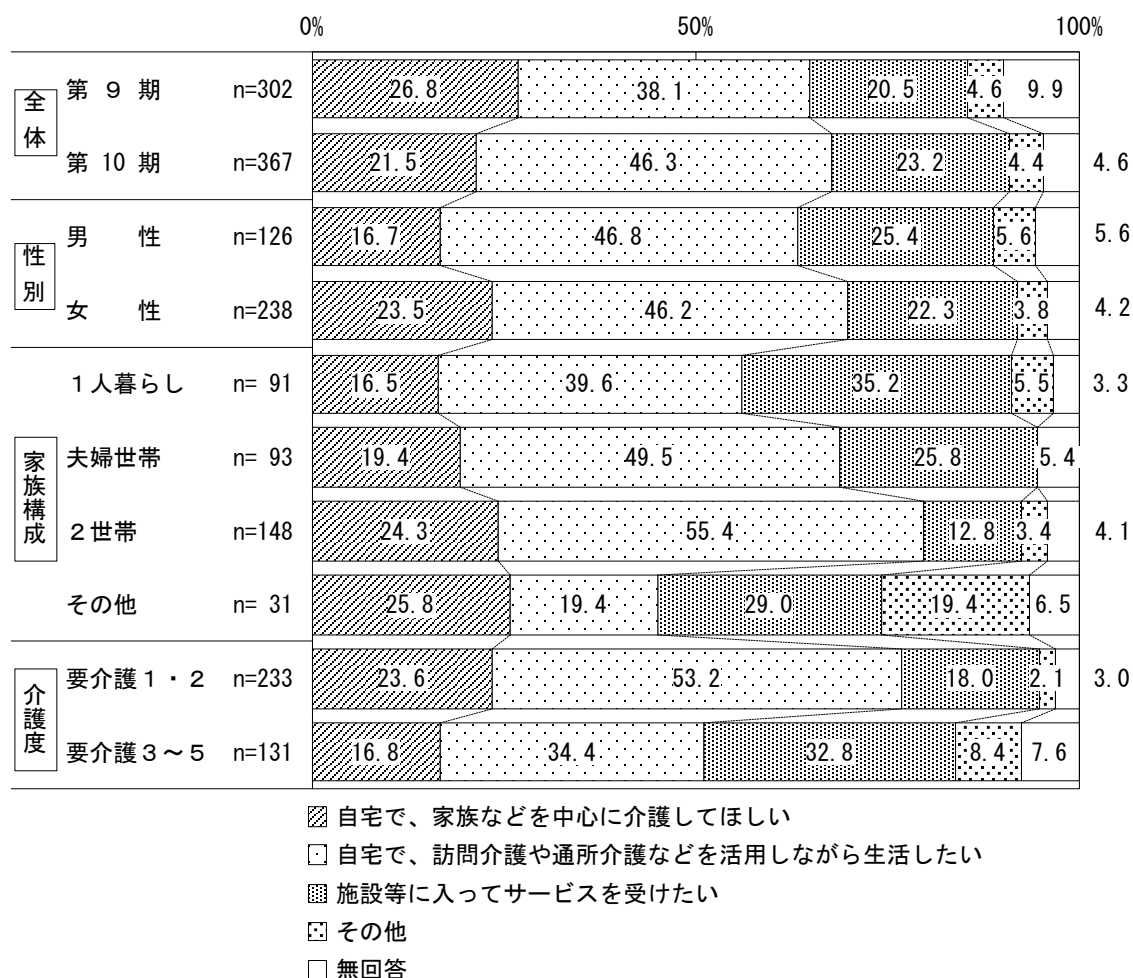
図表3-28 人生会議（ACP）の認知度



(2) 今後、どのような介護を受けたいか

- ▶今後、どのような介護を受けたいかについては、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が46.3%を占めており、「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」（21.5%）との合計《在宅希望》は67.8%となっています。「施設等に入ってサービスを受けたい」は23.2%です。第9期の調査結果に比べ「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が8.2ポイント上昇しています。
- ▶性別にみると、女性は男性に比べ「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」が6.8ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「施設等に入ってサービスを受けたい」が35.2%と他の家族構成に比べ高くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2では「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が50%を超えています。

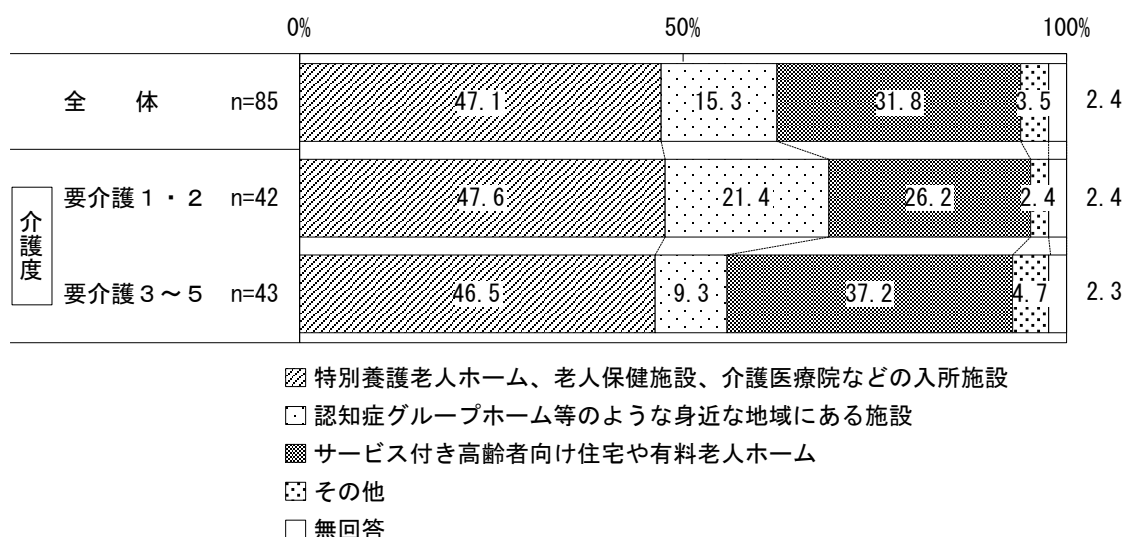
図表3-29 今後、どのような介護を受けたいか



(3) 希望する施設

- ▶今後、受けたい介護について「施設等に入ってサービスを受けたい」と回答した85人の希望する施設については、「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院などの入所施設」が47.1%と最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が31.8%、「認知症グループホーム等のような身近な地域にある施設」が15.3%となっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護1・2、要介護3～5ともに「特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院などの入所施設」が47%前後を占めていますが、要介護3～5では「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム」が、要介護1・2では「認知症グループホーム等のような身近な地域にある施設」が、それぞれ10ポイント以上高くなっています。

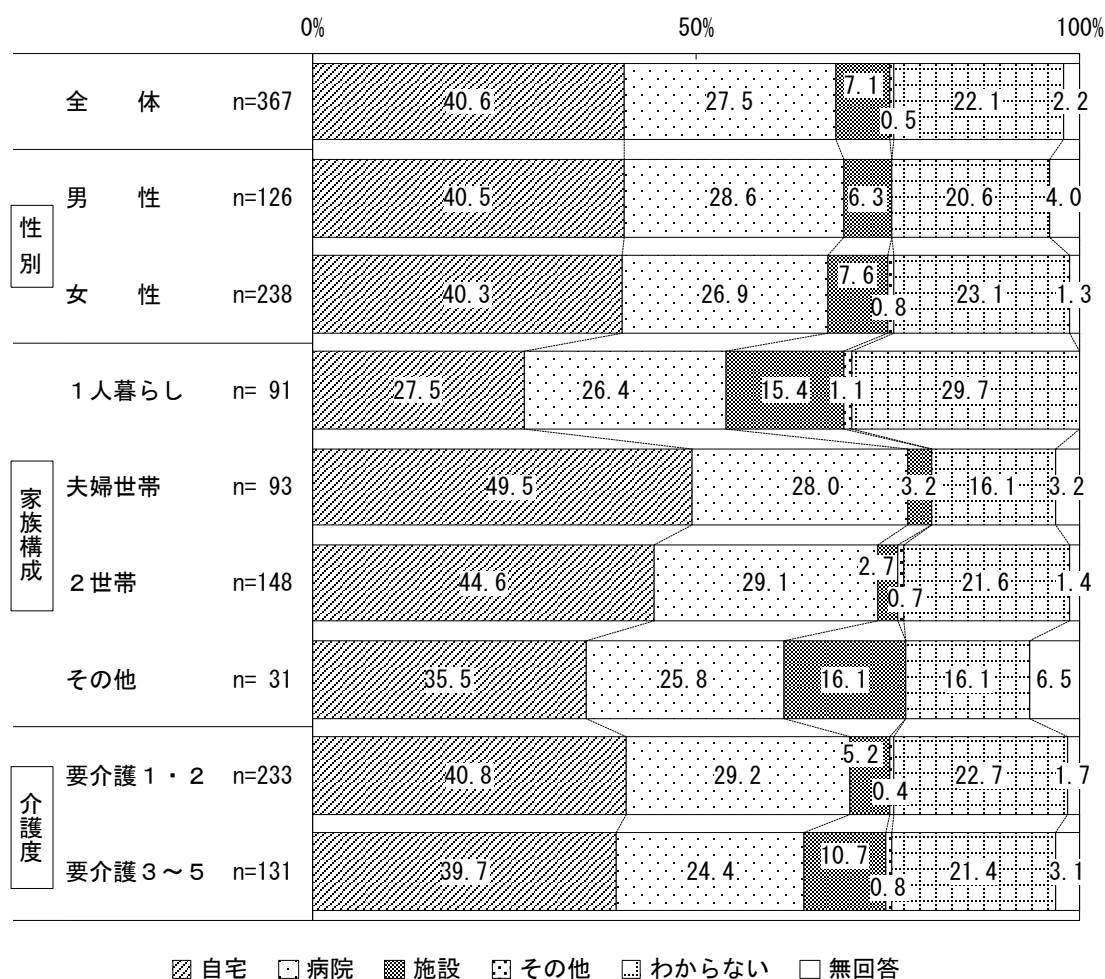
図表3-30 希望する施設



(4) 人生の最期をどこで迎えたいか

- ▶仮に治る見込みのない病気等で死期が近い場合、どこで最期を迎えたいと思うかお聞きしたところ、「自宅」が40.6%と最も高く、次いで「病院」が27.5%、「わからない」が22.1%などとなっています。
- ▶家族構成別にみると、1人暮らしでは「自宅」が他の家族構成に比べ大幅に低くなっています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「施設」が5ポイント以上高くなっています。

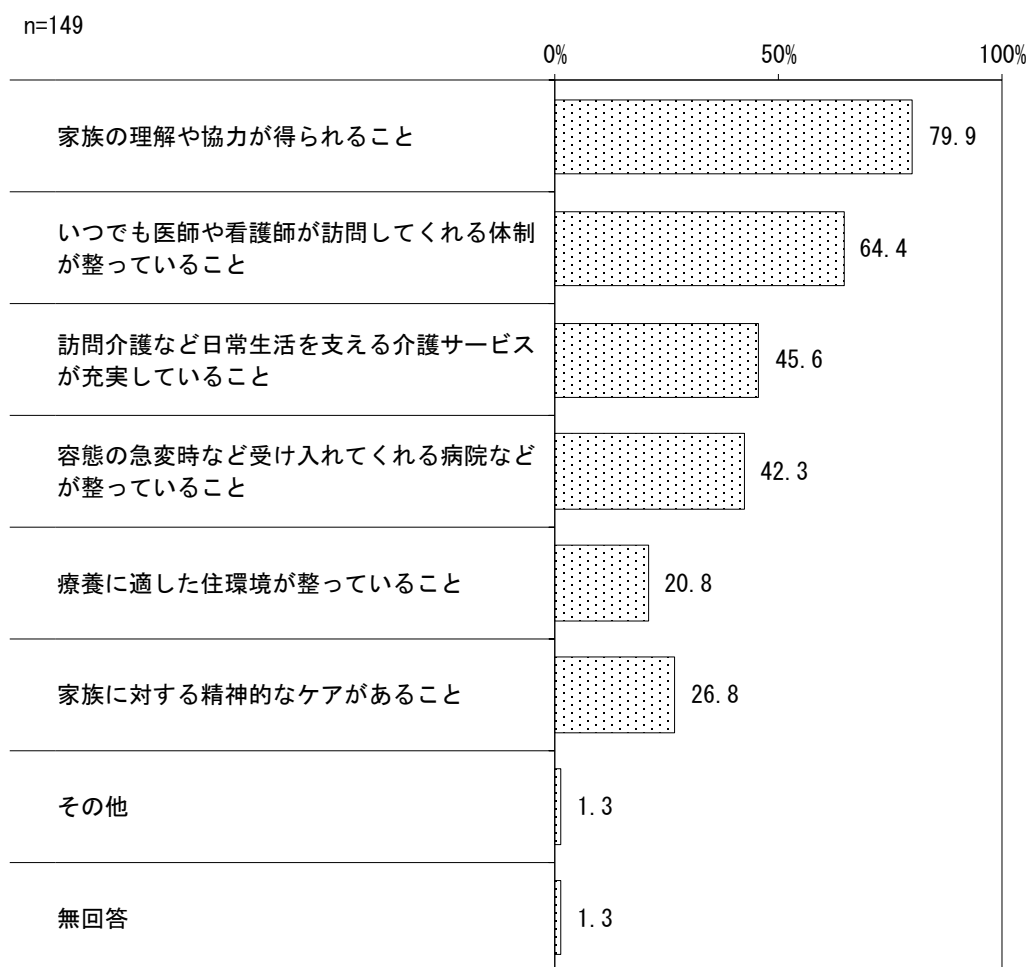
図表3-31 人生の最期をどこで迎えたいか



(5) 自宅で最後を迎えるための条件

▶自宅で人生の最期を迎えたいと回答した149人に、どのような条件がそろえば、自宅で安心して最期を迎えられると思うかをお聞きしたところ、「家族の理解や協力が得られること」が79.9%と最も高く、次いで「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」が64.4%、「訪問介護など日常生活を支える介護サービスの充実していること」が45.6%、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が42.3%などとなっています。

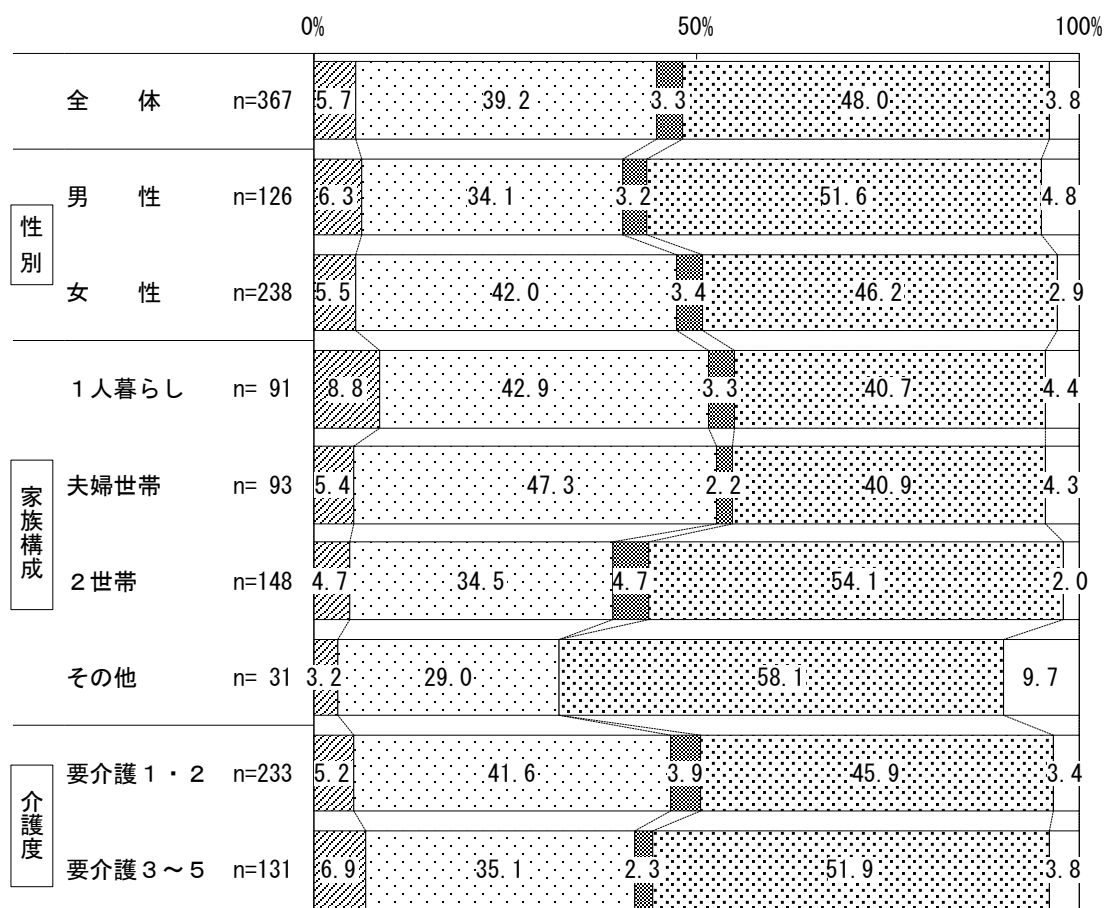
図表3-32 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）



(6) もしものことを考えて家族と話し合ったりしているか

- ▶ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、家族（同居していない子どもや親族等を含む）と話し合ったり、書面に残しているかお聞きしたところ、「何もしていない」が48.0%と最も高くなっています。「話し合っており、書面も残している」（5.7%）と「話し合っているが、書面は残していない」（39.2%）の合計《話し合っている》は44.9%、「話し合っており、書面も残している」と「話し合っていないが、書面は残している」（3.3%）の合計《書面に残している》は9.0%です。
- ▶性別にみると、女性は男性に比べ《話し合っている》が7.1ポイント高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、夫婦世帯および1人暮らしでは《話し合っている》が50%を超えています。
- ▶要介護度別にみると、要介護3～5では要介護1・2に比べ「何もしていない」が6ポイント高くなっています。

図表3-33 もしものことを考えて家族と話し合ったり、書面に残しているか

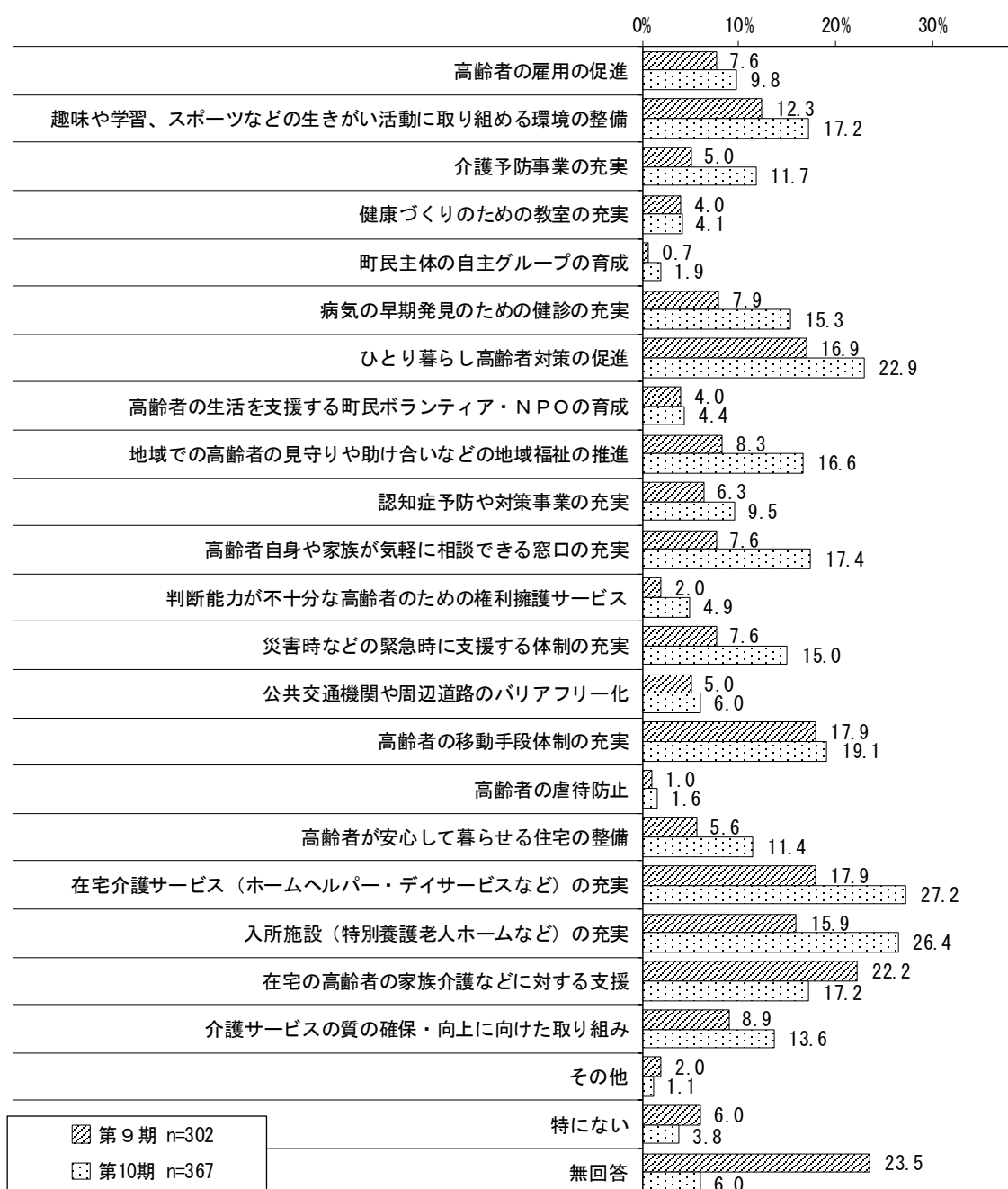


- 話し合っており、書面も残している
- 話し合っているが、書面は残していない
- 話し合っていないが、書面は残している
- 何もしていない
- 無回答

7 高齢者施策（重点に置くべき高齢者施策）について

▶高齢社会に対して、今後何に重点を置くべきだと思うかについては、「在宅介護サービス（ホームヘルパー・デイサービスなど）の充実」が27.2%と最も高く、次いで「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が26.4%、「ひとり暮らし高齢者対策の促進」が22.9%などとなっています。第9期の調査結果に比べ、ほとんどの項目が上昇していますが、特に「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」「高齢者自身や家族が気軽に相談できる窓口の充実」および「在宅介護サービス（ホームヘルパー・デイサービスなど）の充実」が10ポイント前後上昇しています。

図表3-34 重点に置くべき高齢者施策（複数回答・3つまで）

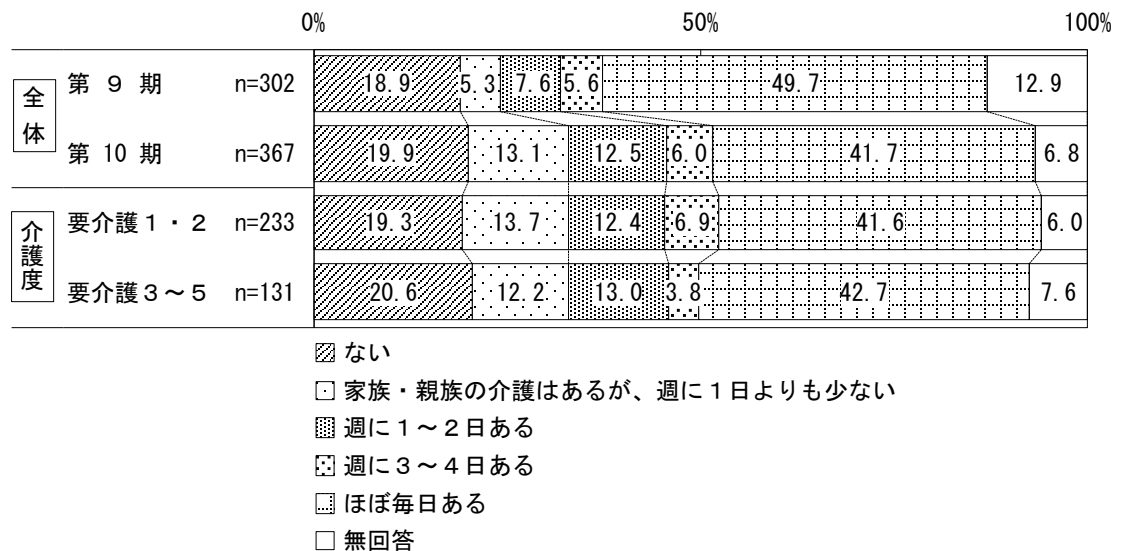


8 介護者について

(1) 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか

▶家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が41.7%を占めています。第9期の調査結果に比べ「ほぼ毎日ある」が8ポイント低下しています。

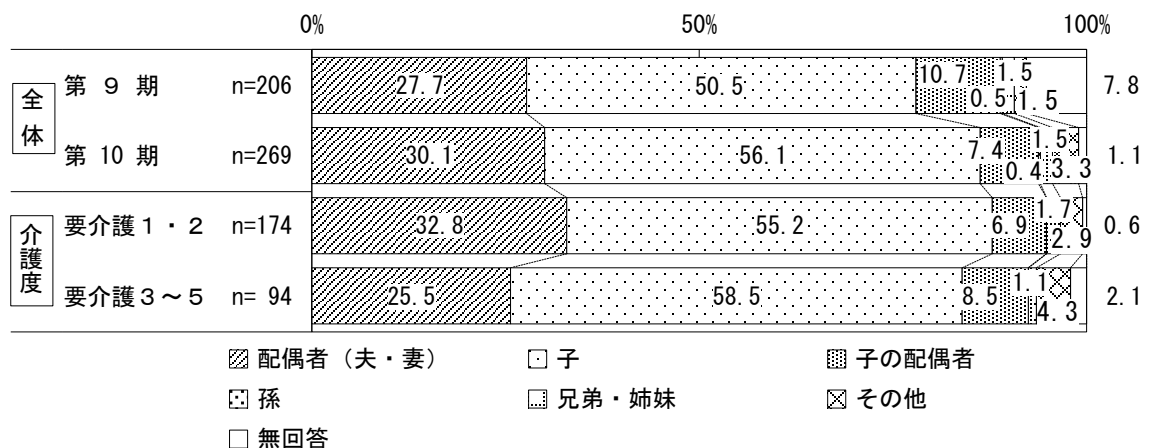
図表3-35 家族や親族からの介護が週にどのくらいあるか



(2) 家族の中の主な介護者

▶家族の中の主な介護者としては、「子」が56.1%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が30.1%、「子の配偶者」が7.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「子」および「配偶者(夫・妻)」が上昇し、「子の配偶者」が低下しています。

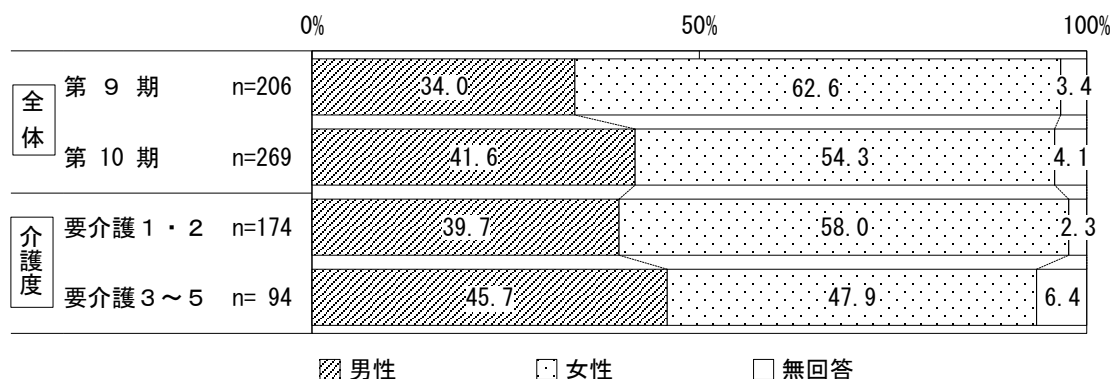
図表3-36 家族の中の主な介護者



(3) 主な介護者の性別

▶家族の中の主な介護者の性別は、「女性」が54.3%を占めていますが、第9期の調査結果に比べ8.3ポイント低下し、「男性」が7.6ポイント上昇しています。

図表 3-37 主な介護者の性別

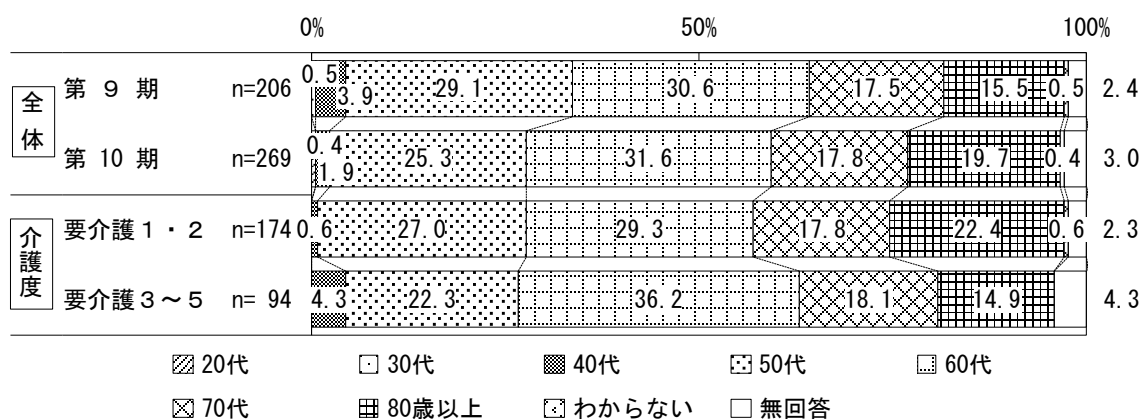


(4) 主な介護者の年齢

▶家族の中の主な介護者の年齢は、「60代」が31.6%と最も高く、次いで「50代」が25.3%、「70代」が17.8%、「80歳以上」が19.7%などとなっています。主な介護者の3人に1人以上が70歳以上です。また、「20歳未満」という回答はありませんでしたが、「20代」が0.4%（1人）あります。第9期の調査結果に比べ「80歳以上」が4.2ポイント上昇しています。

▶なお、別の設問として「問30 主な介護者（常時）で18歳未満の方はいますか」を設定しましたが、「いる」という回答はありませんでした。

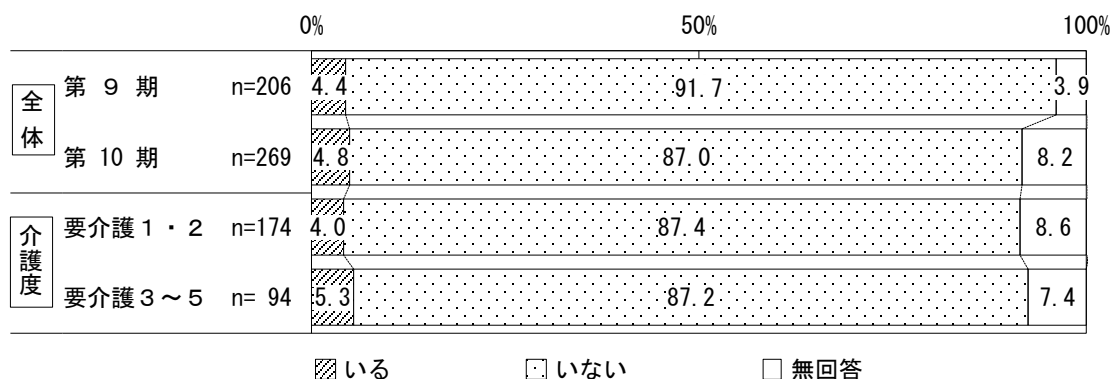
図表 3-38 主な介護者の年齢



(5) 介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人の有無

▶介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人については、「いる」が4.8%（13人）あります。第9期の調査結果に比べ大きな変化はありません。

図表 3-39 介護が原因で進学や就職などが希望通りになっていない人の有無

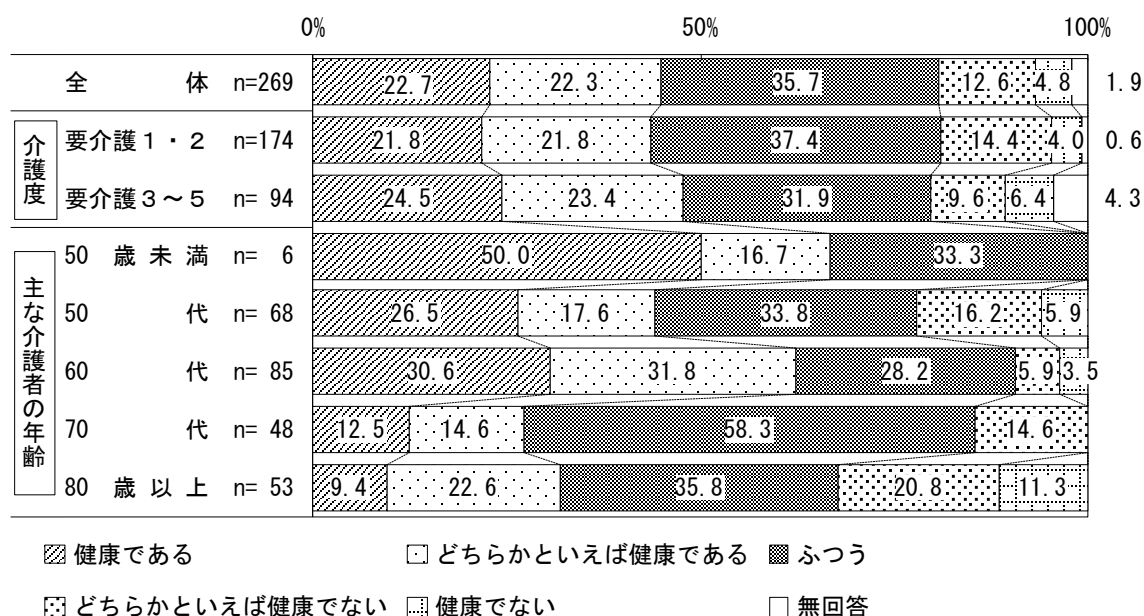


(6) 主な介護者の健康状態

▶家族の中の主な介護者の健康状態は、「ふつう」が35.7%と最も高く、次いで「健康である」が22.7%、「どちらかといえば健康である」が22.3%となっていますが、「どちらかといえば健康でない」が12.6%、「健康でない」が4.8%あり、これらを合計した《健康に問題がある》が17.4%あります。

▶主な介護者の年齢別にみると、80歳以上では《健康に問題がある》が30%以上あります。

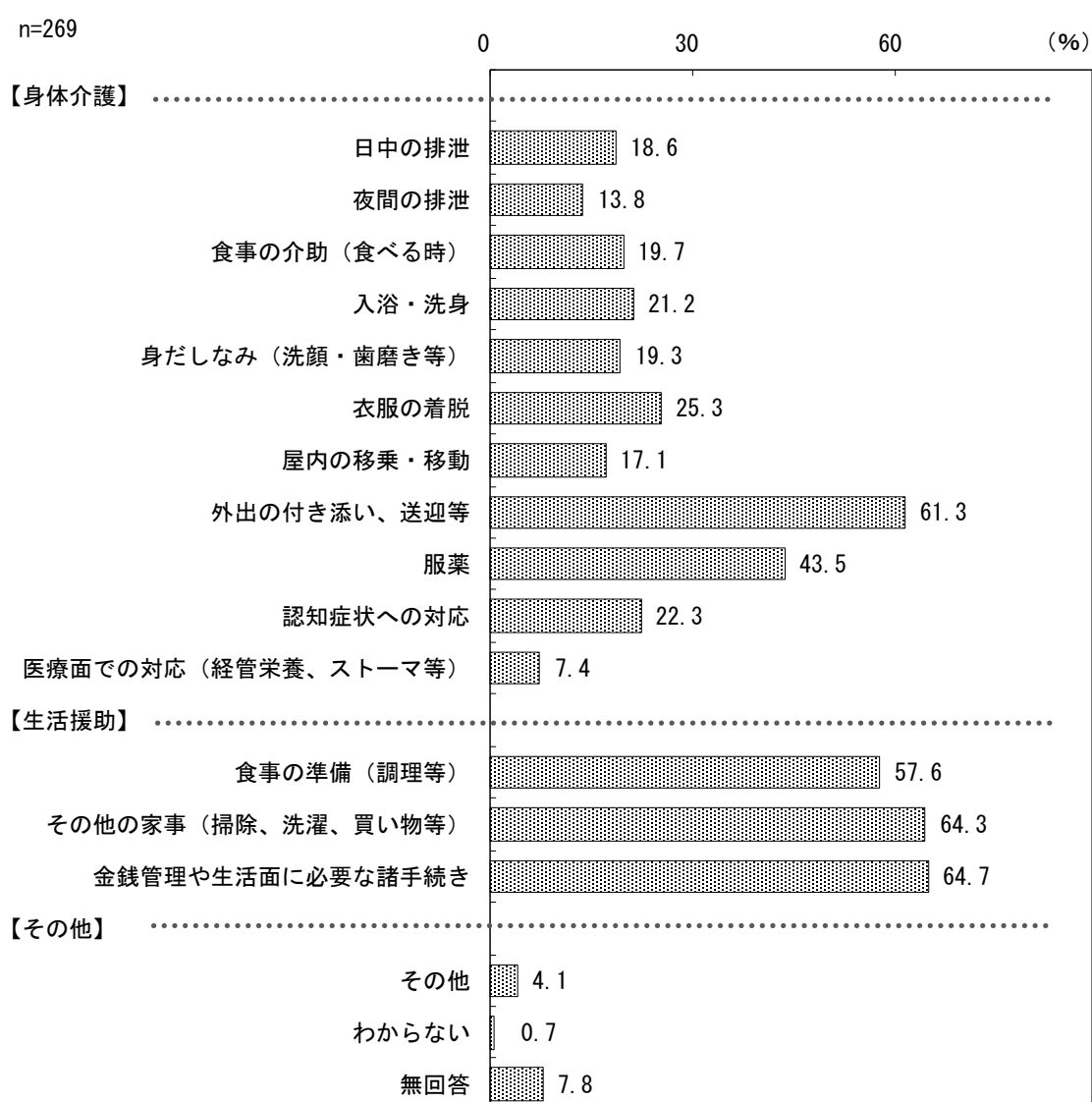
図表 3-40 主な介護者の健康状態



(7) 主な介護者が行っている介護等

- ▶現在、主な介護者が行っている介護等については、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が64.7%と最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が64.3%と生活援助にかかる2項目が64%台の高い率となっています。また、身体介護の「外出の付き添い、送迎等」が60%を超えています。
- ▶「その他」として「施設生活の見守り」「屋外へ出ないように見守る」「立ち上がる介助」「散髪」などの記載がありました。

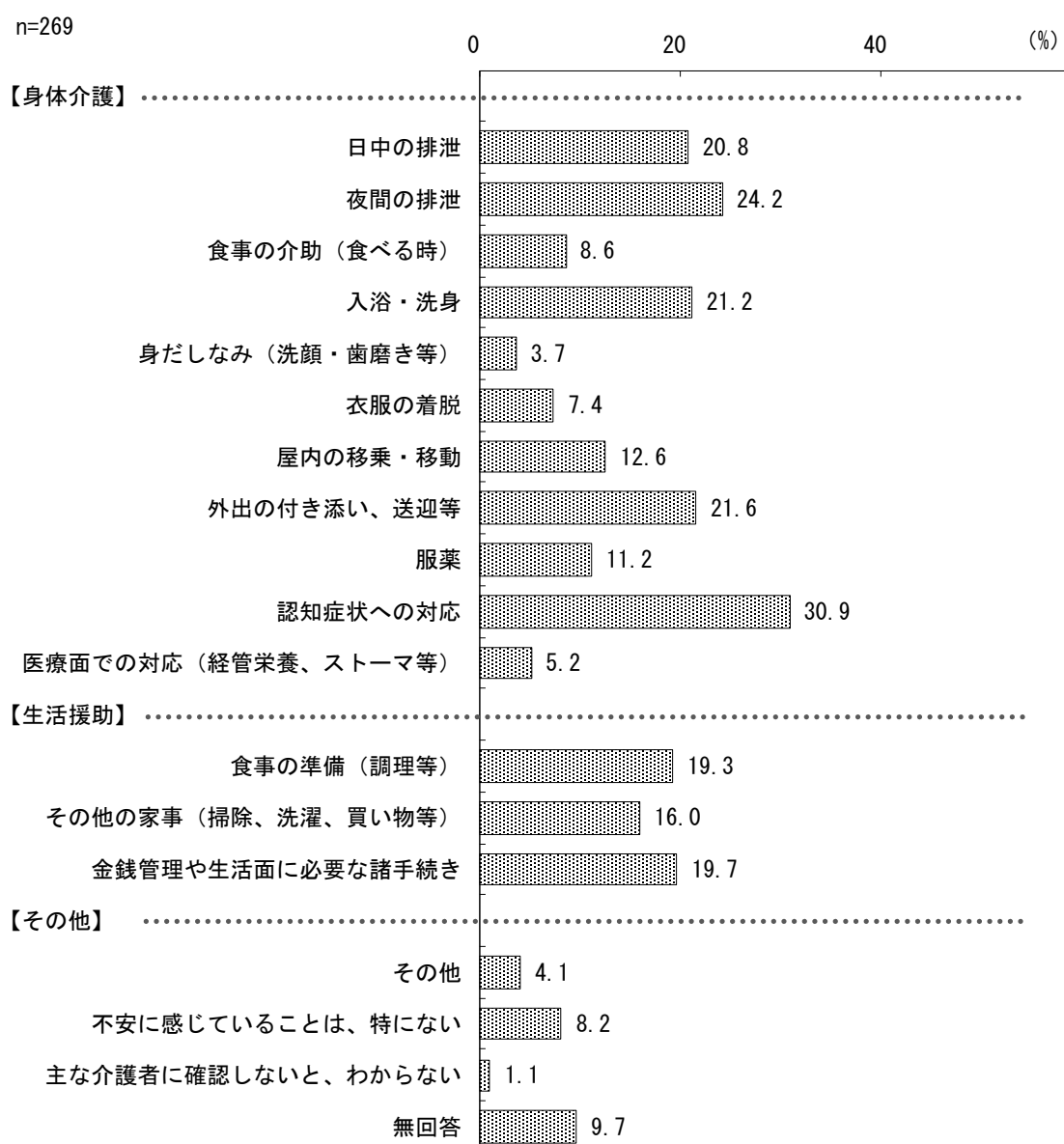
図表3-41 主な介護者が行っている介護等（複数回答）



(8) 主な介護者が不安に感じる介護等

- ▶現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症への対応」が30.9%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が24.2%、「外出の付き添い、送迎等」が21.6%、「入浴・洗身」が21.2%、「日中の排泄」が20.8%など身体介護にかかる項目が高くなっています。
- ▶「その他」として、「経済的な負担」「介護者自身の健康」などの記載がありました。

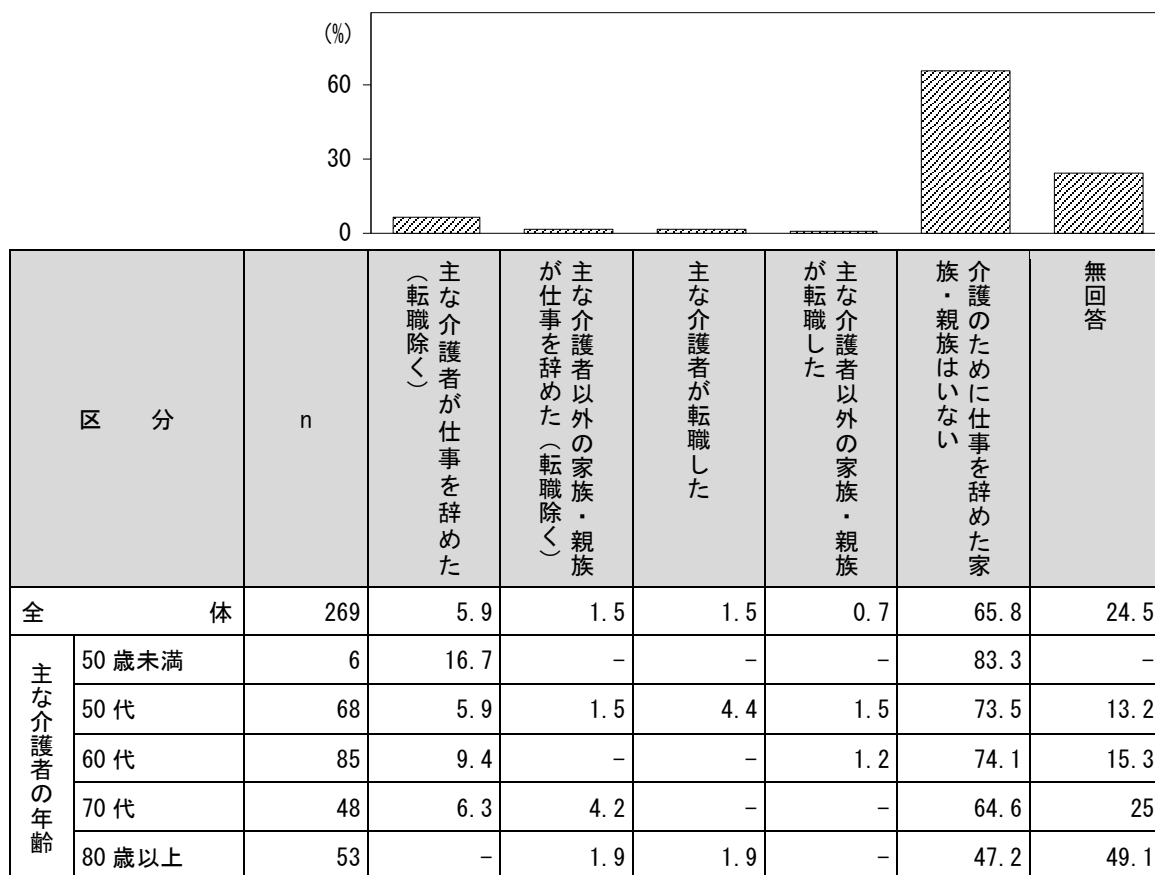
図表3-42 主な介護者が不安に感じる介護等(複数回答・3つまで)



(9) 介護を主な理由とした離職

- ▶家族や親族で、介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた人がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が65.8%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が5.9%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」および「主な介護者が転職した」が1.5%などとなっています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、50歳未満では「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が16.7%（1人）、60代では9.4%（8人）となっています。

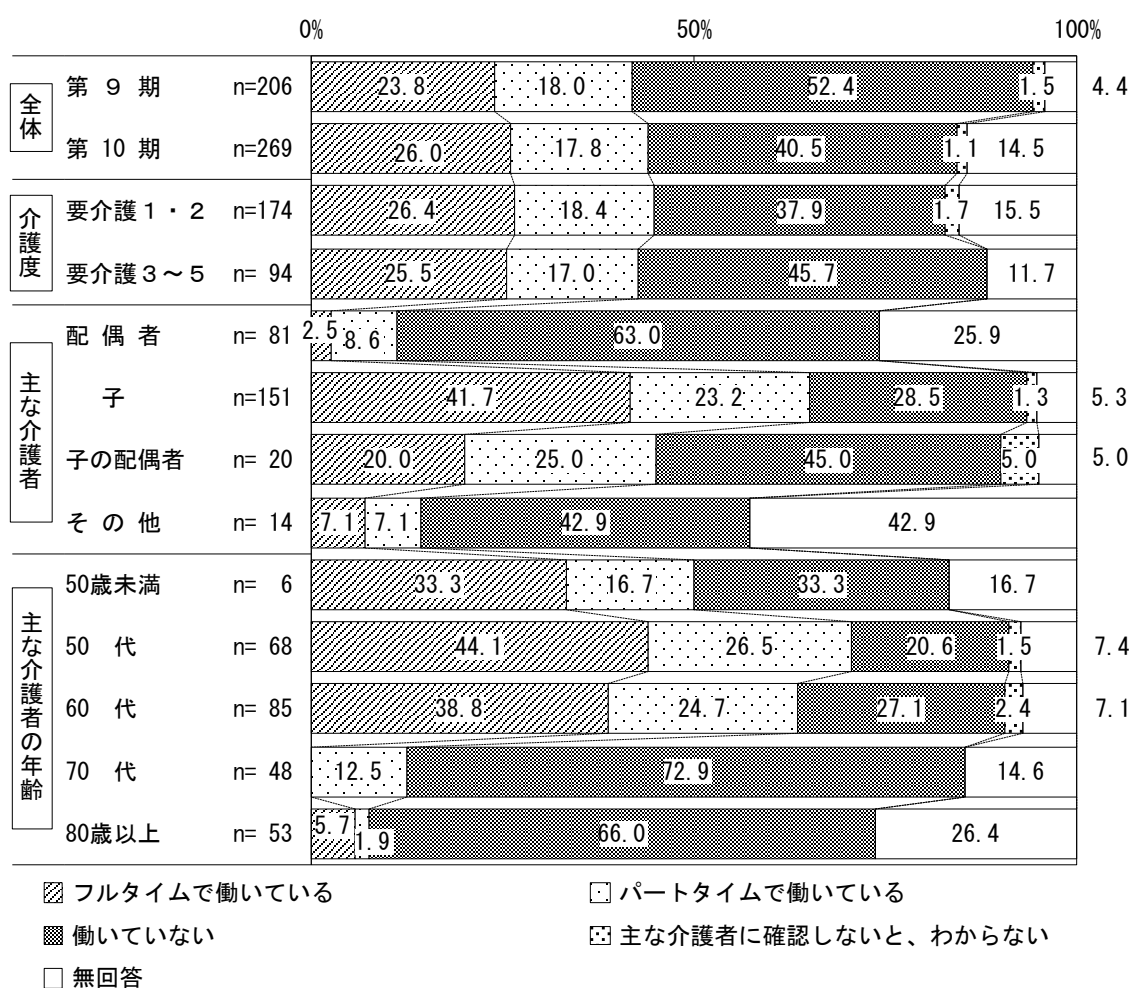
図表3-43 介護を主な理由とした離職（複数回答）



(10) 主な介護者の勤務形態

- ▶主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が40.5%を占めていますが、「フルタイムで働いている」が26.0%、「パートタイムで働いている」が17.8%あり、これらの合計《働いている》は43.8%で、第9期の調査結果に比べ2ポイント上昇しています。
- ▶主な介護者が子の場合、「フルタイムで働いている」が41.7%を占めています。
- ▶主な介護者の年齢別にみると、《働いている》は若い年齢層ほど高い傾向にあり、50代では70%、60代では60%を超えています。

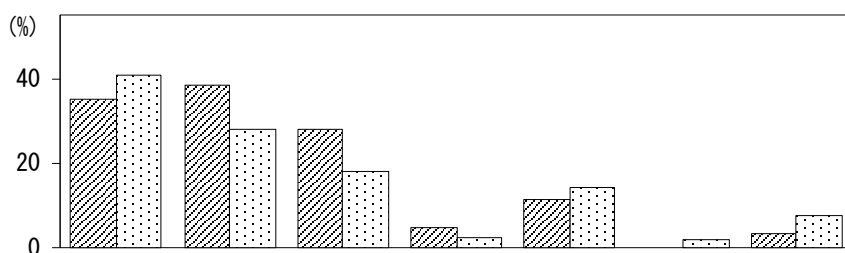
図表3-44 主な介護者の勤務形態



(11) 主な介護者が介護のためにしている働き方の調整

- ▶《働いている》主な介護者が介護のためにしている働き方の調整については、「特に行っていない」が40.7%と最も高くなっています。次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が28.0%、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている（B）」が17.8%、「A～C以外の調整をしながら、働いている」が14.4%などとなっています。第9期の調査結果に比べ「特に行っていない」が5.8ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、パートタイムに比べフルタイムは「特に行っていない」が15.8ポイント高くなっています。また、フルタイムに比べパートタイムは「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が16.1ポイント、「A～C以外の調整をしながら、働いている」が14.3ポイント高くなっています。

図表3-45 主な介護者は、介護のために働き方を調整しているか（複数回答）

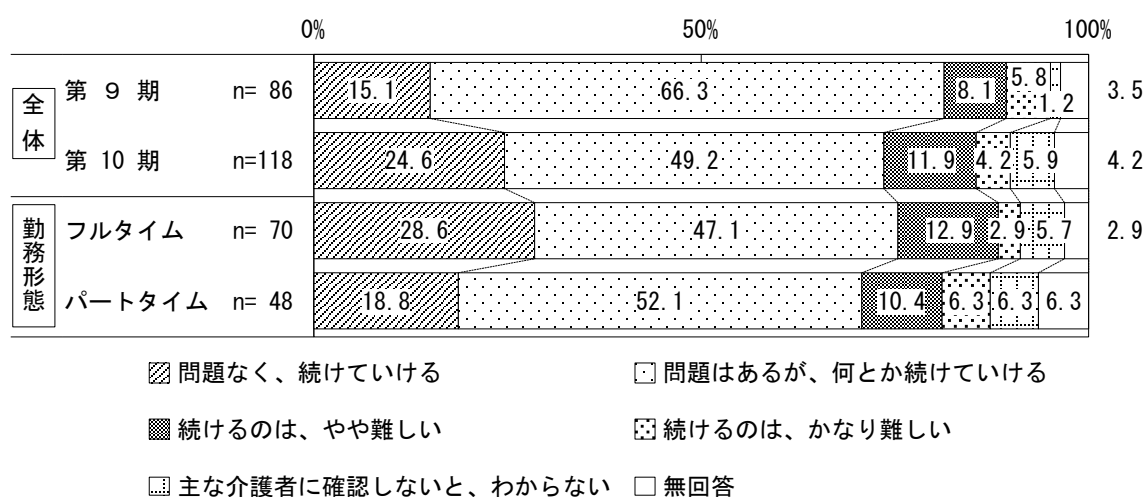


区 分		n	特に行っていない	「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」	「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（B）」	「在宅勤務」を利用しながら、働いている（C）」	A～C以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全 体	第 9 期	86	34.9	38.4	27.9	4.7	11.6	-	3.5
	第 10 期	118	40.7	28.0	17.8	2.5	14.4	1.7	7.6
勤務形態	フルタイム	70	47.1	21.4	17.1	4.3	8.6	2.9	5.7
	パートタイム	48	31.3	37.5	18.8	-	22.9	-	10.4

(12) 仕事と介護の両立

- ▶《働いている》主な介護者に対する「今後も働きながら介護を続けていけそうですか」という設問については、「問題はあるが、何とか続けていける」が49.2%を占めています。次いで「問題なく、続けていける」が24.6%となっていますが、「続けるのは、やや難しい」が11.9%、「続けるのはかなり難しい」が4.2%あり、《継続困難》は16.1%となります。第9期の調査結果に比べ《継続困難》が2.2ポイント上昇していますが、「問題なく、続けていける」も9.5ポイント上昇しています。
- ▶勤務形態別にみると、「問題なく、続けていける」はパートタイムに比べフルタイムが9.8ポイント高くなっています。

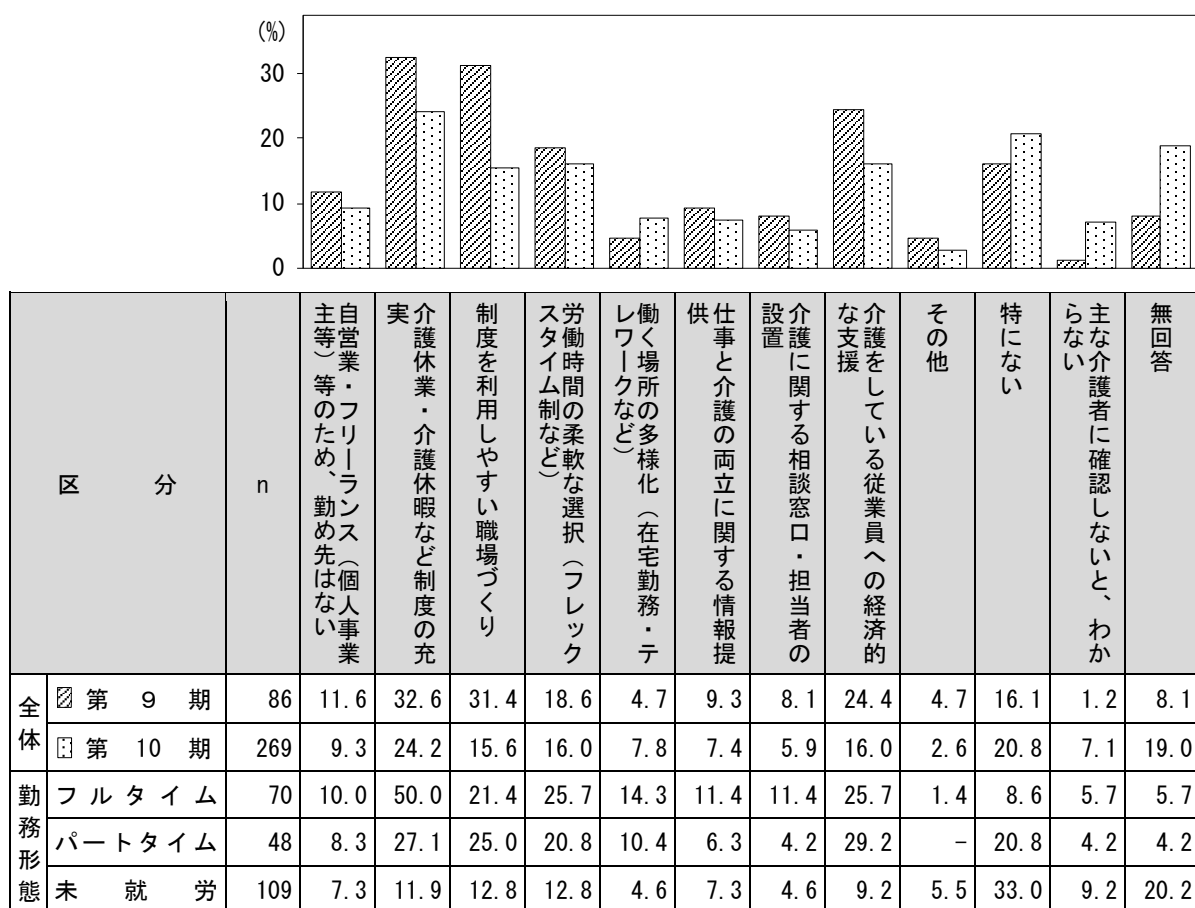
図表3-46 仕事と介護の両立



(13) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

- ▶仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇など制度の充実」が24.2%と最も高くなっています。次いで「特にない」が20.8%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」および「介護をしている従業員への経済的な支援」が16.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」が15.6%などとなっています。
- ▶勤務形態別にみると、フルタイムでは「介護休業・介護休暇など制度の充実」が、パートタイムでは「介護をしている従業員への経済的な支援」がそれぞれ最も高くなっています。

図表3-47 仕事と介護の両立に効果があると思われる支援（複数回答）



9 調査票の記入者

- ▶調査票の記入者は「調査対象者（あて名の方）ご本人」が37.1%、「主な介護者となっているご家族・ご親族」が59.9%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.9%、「その他」が2.2%です。
- ▶要介護度別にみると要介護1・2では「調査対象者（あて名の方）ご本人」が45.9%ですが、要介護3～5では20.6%となっています。

図表3-48 調査票の記入者（複数回答）

